

資 料 編

資料 1	やまがた緑環境税制度の評価・検証の経過	1
資料 2	山形県の森林・林業・木材産業の概要	2
資料 3	荒廃森林緊急整備事業のモニタリング調査	6
資料 4	やまがた緑環境税に関するアンケート結果	9
資料 5	県民参加の森づくり活動等参加者数一覧	30

資料 1 やまがた緑環境税制度の評価・検証の経過

令和7年度

令和7年4月30日	やまがた緑環境税活用事業評価・検証プロジェクトチーム設置 やまがた緑環境税活用事業評価・検証ワーキンググループ設置
令和7年5月20日	第1回やまがた緑環境税活用事業評価・検証ワーキンググループ会議 (評価・検証体制とスケジュール、実績、現状と課題等について)
令和7年7月3日	第1回やまがた緑環境税評価・検証委員会 (評価・検証体制、スケジュールの協議)
令和7年7月16日	第2回やまがた緑環境税活用事業評価・検証ワーキンググループ会議 (課題の整理、次期計画の方向性(案)について)
令和7年7月31日	第1回やまがた緑環境税活用事業評価・検証プロジェクトチーム会議 (評価・検証体制とスケジュール、実績、課題の整理について)
令和7年8月～11月	やまがた緑環境税の評価・検証に関するアンケート調査の実施 (県政アンケート、個人・法人アンケート、森林所有者アンケートなど)
令和7年9月～10月	やまがた緑環境税の評価・検証に関するアンケート調査の実施(市町村)
令和7年9月3日	第2回やまがた緑環境税評価・検証委員会 (実績、成果と課題、今後の対応等について)
令和7年10月9日	第3回やまがた緑環境税活用事業評価・検証ワーキンググループ会議 (次期計画の方向性(案)と目標値(案)について)
令和7年10月～11月	意見交換会(市町村、公募団体、林業事業体、森の案内人等)
令和7年12月23日	第4回やまがた緑環境税活用事業評価・検証ワーキンググループ会議 (アンケート調査結果と意見交換会を受けての課題整理、次期計画の方向性(案)と目標値(案)について)
令和8年1月30日	第5回やまがた緑環境税活用事業評価・検証ワーキンググループ会議 (やまがた緑環境税の評価・検証について(中間報告(案)協議)
令和8年2月10日	税制度研究会
令和8年2月13日	第2回やまがた緑環境税活用事業評価・検証プロジェクトチーム会議 (やまがた緑環境税の評価・検証について(中間報告(案)協議)
令和8年3月24日	第3回やまがた緑環境税評価・検証委員会 (やまがた緑環境税の評価・検証について(中間報告(案)協議)

令和8年度

令和8年6月11日	第1回やまがた緑環境税評価・検証委員会 (やまがた緑環境税の評価・検証について(最終報告(案)協議)
-----------	---

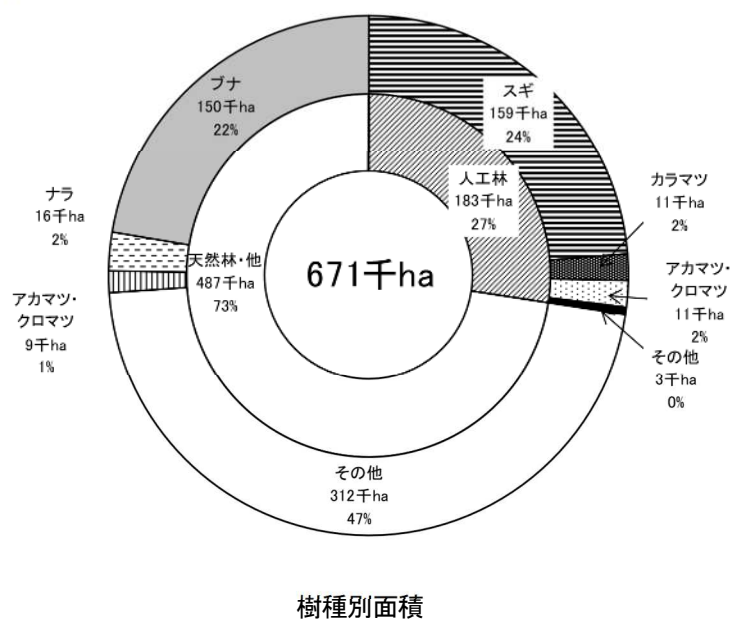
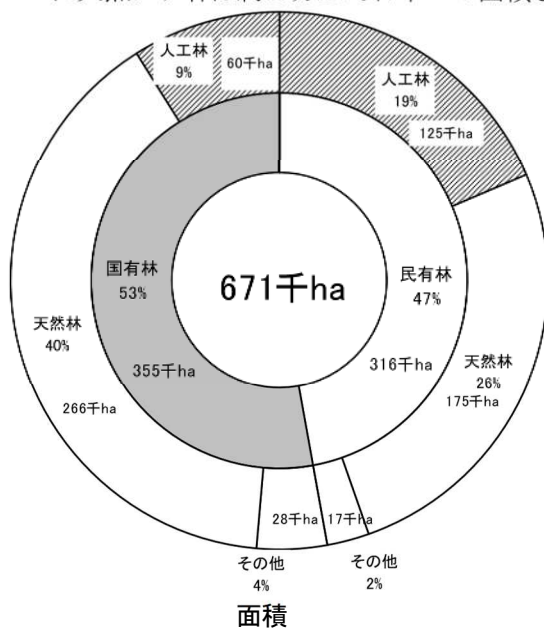
資料2 山形県の森林・林業・木材産業の概要

1 山形県の森林・林業・木材産業の概要

(1) 山形県の森林面積・蓄積

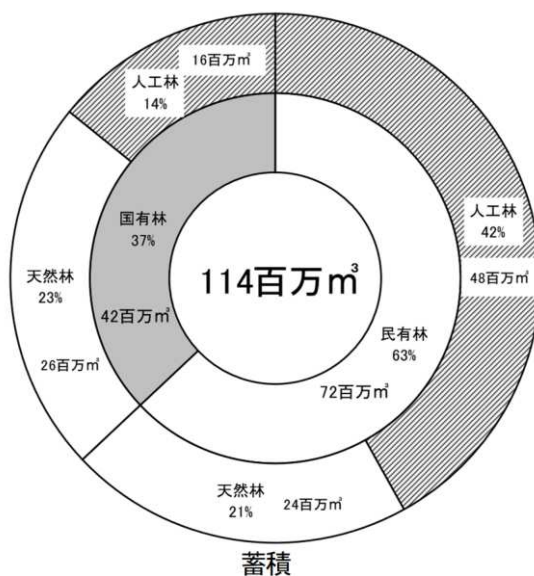
(面積)

- ・ 山形県の林野面積は約67万ha(全国第8位)で、県土面積の7割を占めています。
- ・ 全体の47%が民有林、53%が国有林となっています。
- ・ 人工林と天然林の構成(面積比)は、天然林が73%と全国平均(41%)を上回っています。
- ・ 森林の概ね3割ずつを「スギ人工林」、「里山のナラ林等」、「奥山のブナ林」が占めており、特に天然ブナ林は約15万haで日本一の面積を誇っています。



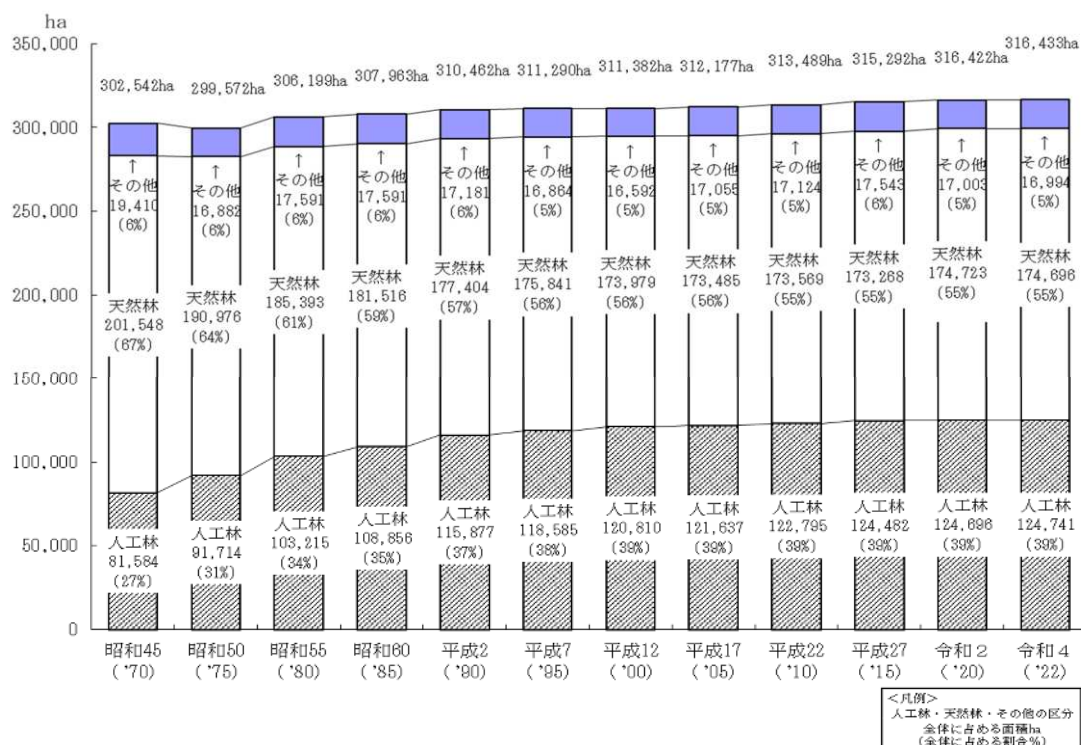
(蓄積)

- ・ 民有林の蓄積は、7,200万m³と全体の63%を占めています。
- ・ 民有林の人工林の蓄積は4,800万m³と、天然林の蓄積2,400万m³の2倍となっています。

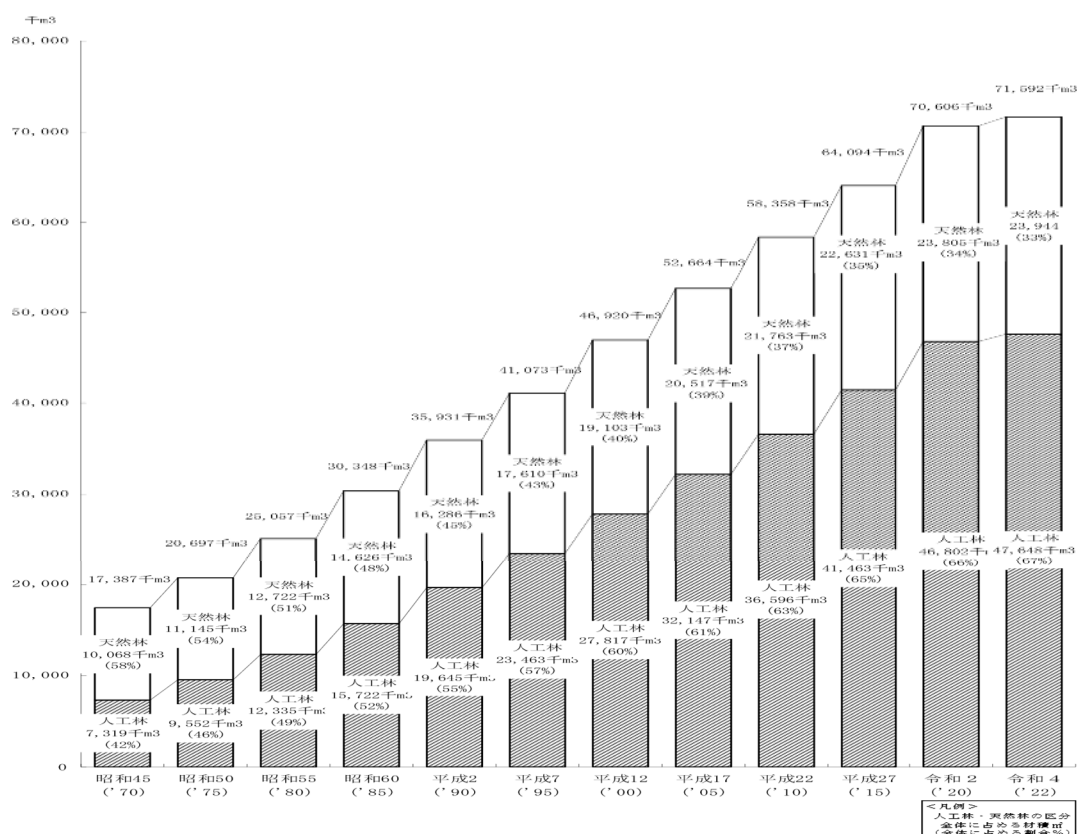


(2) 山形県の民有林の面積・蓄積の推移

- 現在の民有林の森林面積は、約32万haとなっており、昭和45年からはほぼ一定で推移しています。天然林、人工林別の面積割合は、50年前と比較すると、天然林面積が約17万haで12%減、人工林面積が約12万haで12%増となっています。
- 民有林の森林蓄積量は、年平均約100万m³ずつ増加しており、現在の蓄積総量は昭和45年からの50年間で約4倍になっています。天然林、人工林別の蓄積は、50年前と比較すると、天然林蓄積が2,394万m³で2.4倍、人工林蓄積が4,765万m³で6.5倍に増加しています。



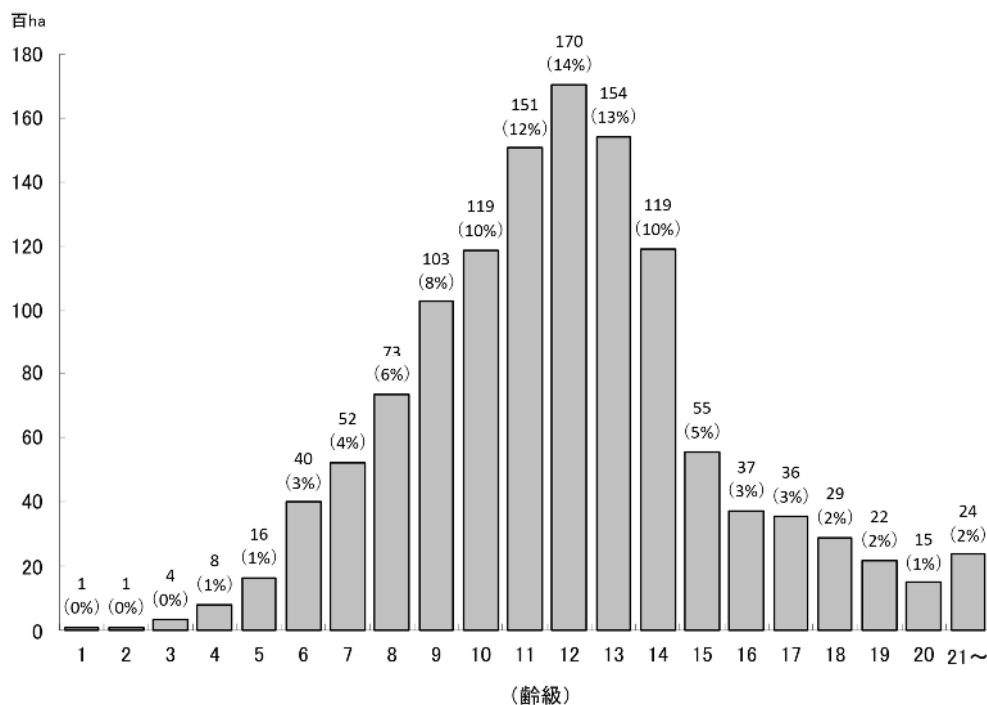
民有林資源推移 (面積)



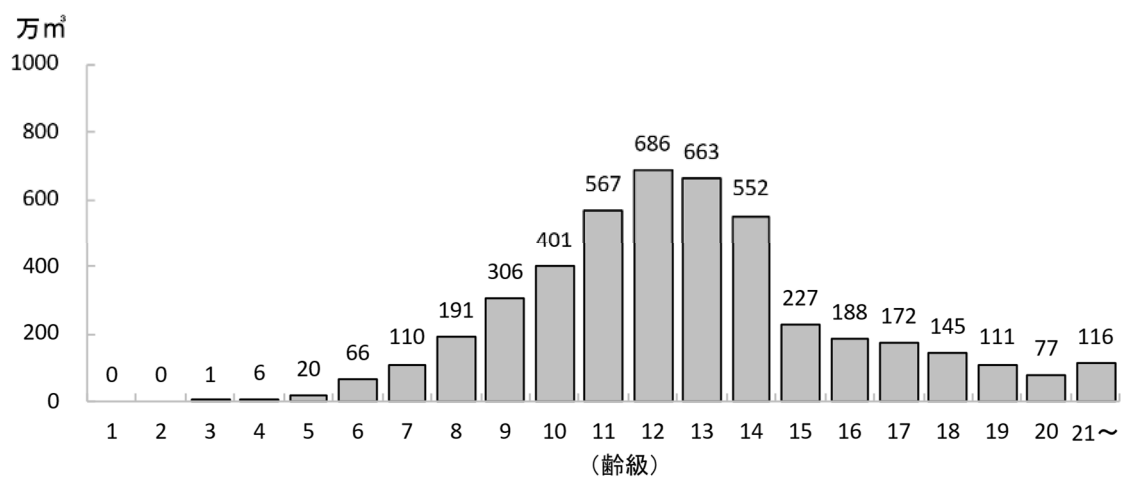
民有林資源推移 (蓄積)

(3) 山形県の齢級別の人工林資源

- 人工林面積の構成を5年きざみの齢級単位にみると、12齢級（56～60年生）前後の面積が最も多くなっています。また、間伐を必要とする4齢級～10齢級（16～50年生）の面積は約4万1千haで、人工林の33%を占めています。
- 森林の蓄積は、13齢級以上（61年生～）の標準伐期齢を超える森林の蓄積量は約2,250万 m^3 で、総蓄積量の49%を占めています。



民有林人工林の齢級別面積

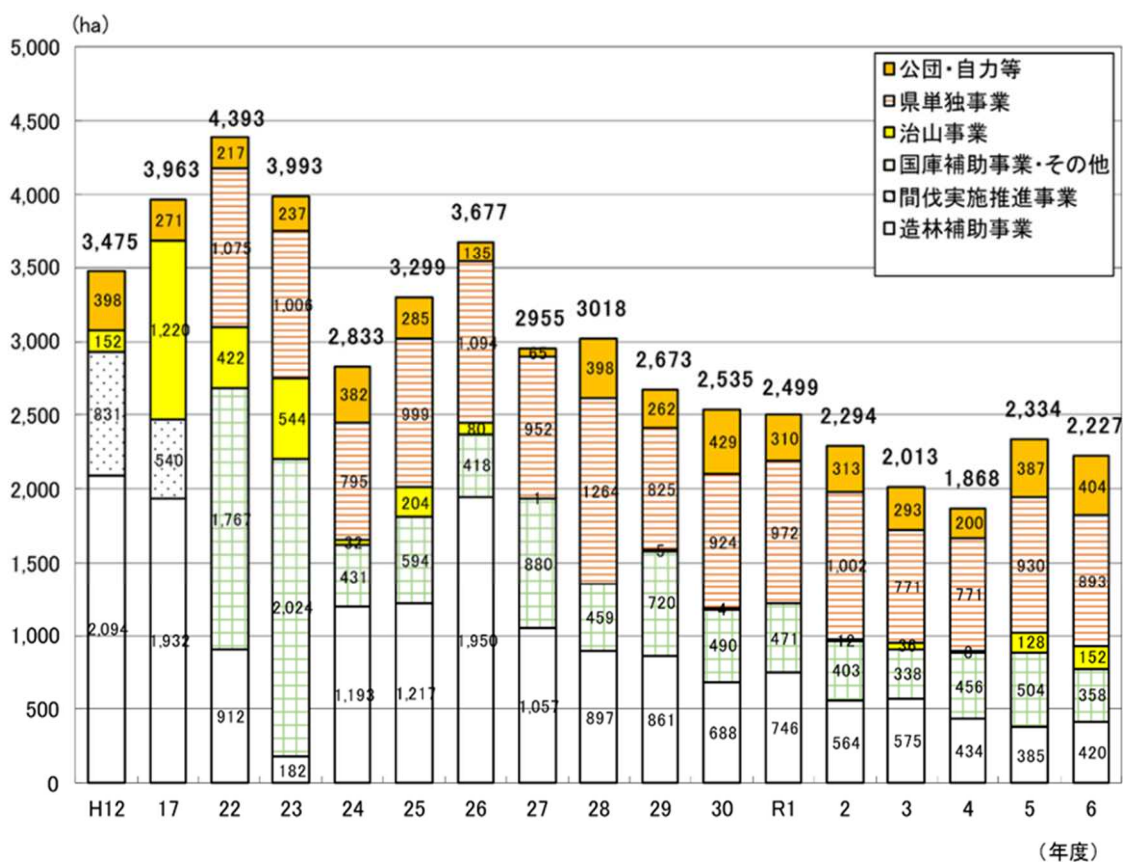


民有林人工林の齢級別蓄積

(4) 民有林間伐実施面積の推移

(民有林における間伐の実施状況)

- ・ 過去10年間（平成27～令和6年）で約24千haの間伐を実施しています。



資料3 荒廃森林緊急整備事業のモニタリング調査

(目的)

荒廃森林緊急整備事業の効果を分析・検証するため、モニタリング調査を実施

1) 植生調査等

平成19～21年度の3年間に整備を行った森林と、対照区として整備を行わない森林との比較調査を、整備前及び整備後2年目から3年ごとに実施

モニタリング調査のスケジュール（数字は調査箇所数）

年度	19	20	21	22	23	...	5	6	7	8	...
荒廃森林整備森林調査 ○:設定・調査(整備前) ●:再調査(整備後)	○ 24		● 24					● 23			
		○ 24		● 23					● 23		
			○ 24		● 24		● 24			● 24	
対照森林調査 ○:設定・調査 ●:再調査	○ 41		● 13					● 8			
				● 14					● 11		
					● 16		● 4			● 9	

(調査の内容)

植生調査等（1箇所当たり）

- ①毎木調査（大プロット20m×20m）
 - ・ 直径4cm以上の個体の樹種、樹高、直径を調査
 - ・ 4つの階層に区分し、階層毎の植被率を調査
- ②低木類の調査（中プロット10m×10m×2）
 - ・ 直径4cm未満、樹高1.5m以上の個体の樹種、樹高、直径を調査
- ③稚樹調査（小プロット1m×1m×18）
 - ・ 樹高1.5m未満の木本の稚樹の樹種・樹高を調査
- ④土壌調査（1断面）
 - ・ 土壌pHの測定等

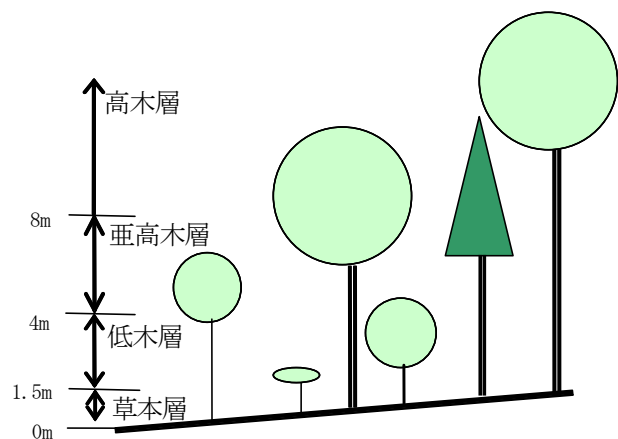
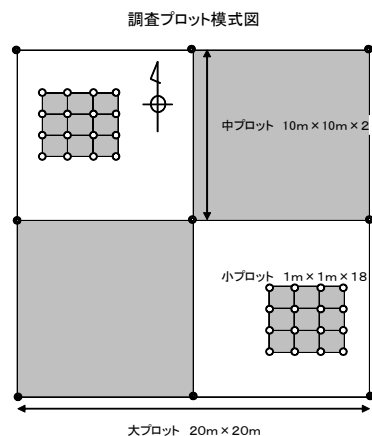


図 プロットの設定イメージと植生調査の階層区分

2) 土壌保全機能の試験評価

平成19～21年度の3年間に整備を行った森林と、対照区として整備を行わない森林の土砂流出量の比較調査を、平成28年度から毎年4箇所で見出し土砂流出防止機能の評価を実施

(調査の内容)

調査区域内に幅25cm、高さ15cm、奥行き20cmの土砂受け箱を10基設置し、箱に溜まった土砂を乾燥後にリター（腐食土）、細土、礫に分類し、乾燥重量を測定し、土砂の流出量を測定



図 土砂受け箱設置状況写真

「森林環境緊急保全対策事業」における森林整備指針及び評価指標

1 針広混交林化施策

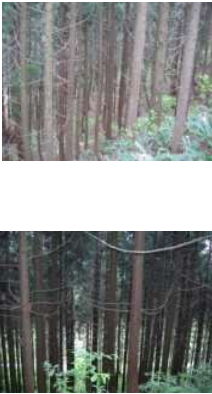
- 目 標 林 型：針葉樹と広葉樹が単木のまたはパッチを単位とするモザイク状態で混交し生育する森林
- 施 業 対 象 林 分：造林木の成長が不良な林分でかつ形状比が高く気象害等の諸被害の発生が危惧される林分、または地理的条件が極めて悪い林分

林型区分	例	想定される整備手法（作業種）	調査項目、評価指標等		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
タイプA-1 【スギ過密林分】 ・スギの形状比：概ね90以上 ・草本層、低木層の植被率：概ね10%以下 ・スギ林分＝閉鎖後		○スギの抜き切り（受光伐） ・抜き切り率：本数率で40%を標準とし、現地状況に応じて±10%の範囲で調整する ○伐採木の集積 ○枯れ枝落し（抜き切り木以外を対象とする） ◆伐採率を標準より高く設定する場合は、林分形状比を低く抑える遺木を行う ◆次のような立地環境では気象害の発生を極力避けるため抜き切り率を上記以下に抑えることも検討 ・多雪地帯（100cm≦最深積雪深<250cm）及び豪雪地帯（250cm≦最深積雪深<400cm） ・少雪地帯（最深積雪深<100cm）でも過去に周辺の林分で冠雪害が発生している地域 ・風害の発生しやすい林分（林業技術ハンドブックP1081～P1082参照）	○調査項目 ・広葉樹、草本類の樹種（種類）、密度、樹高、直径、被度 ・スギの樹高、直径、密度 ・高木性広葉樹の高木層の形成状況 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・下層植生（広葉樹含む）の侵入状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の侵入・生育状況 ・スギ形状比 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後20年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・混交林化の誘導状況	○当該林分の周辺に高木性樹種からなる広葉樹林が存在しない場合（種子の供給源がない）は、当面、先駆樹種、草本類の侵入を期待する ○急傾斜地においては伐採木の滑落等による被害や表土の流出を防ぐため林内に集積・安定（杭による固定含む）させる ○現存する高木性広葉樹は伐採しないよう留意する pH：土壌酸度 EC：電気伝導度
タイプA-2 【草本類侵入林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 ・高木性広葉樹の侵入ほとんどない ・スギ立木密度>収獲予想表該当本数 ・スギ林分＝閉鎖後					
タイプA-3 【高木性広葉樹侵入林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 ・高木性広葉樹は散在している ・スギ立木密度>収獲予想表該当本数 ・スギ林分＝閉鎖後またはほぼ閉鎖					
タイプB 【気象害を受けた林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 ・高木性広葉樹の侵入ほとんどない ・スギ立木密度>収獲予想表該当本数 ・被害により閉鎖は破れている					○主な気象害 ・冠雪被害林分 ・潮風被害林分（庄内）

林型区分	例	想定される整備手法（作業種）	調査項目、評価指標等		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
タイプC 【スギ生育不良林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 ・チマキザサ侵入している場合もあり ・スギ立木密度>収獲予想表該当本数 ・スギ林分＝閉鎖前または不成熟造林地	 	○スギの抜き切り（照度に影響を与えている場合） ○害害木の除去（主にスギ） 【高木性広葉樹が高木性以外の広葉樹と競合しているかまたは被圧されている場合】 ○高木性広葉樹の刈り出し ・高木性広葉樹の周辺の高木性以外の広葉樹の刈払い ・ササ類の刈払い 【高木性広葉樹が他の広葉樹より優占しはじめている場合】 ○高木性広葉樹の本数調整伐	○調査項目 ・高木性広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・高木性広葉樹の高木層の形成状況 ・スギの樹高、直径、密度 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・スギ形状比 ・階層別植被率 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後10年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・階層別植被率 ・混交林化の誘導状況	

2 長伐期択伐林誘導施策（一元管理）

- (1) 目 標 林 型：長伐期択伐林施策が可能な形質を持つ立木を含む林分で冠雪害に対して安全な形状比を有するとともに林床には下層植生が生育している森林
- (2) 施 業 対 象 林 分：立地環境においてはスギの生育に適しているものの保育施策が適期に行われなかったため林地荒廃が危惧される林分

林型区分	例	想定される整備方法（作業種）	評価指標		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
【スギ過密林分】 ・スギ立木密度>収獲予想表該当本数		○スギの間伐 間伐率：林冠を壊さないことを原則とし、山形県スギ林分収獲予想表における当該密度を目標とする ◆次のような立地環境では気象害の発生を極力避けるため抜き切り率を抑えることも検討する ・多雪地帯（100cm≦最深積雪深<250cm）及び豪雪地帯（250cm≦最深積雪深<400cm） ・少雪地帯（最深積雪深<100cm）でも過去に周辺の林分で冠雪害が発生している地域 ・風害の発生しやすい林分（林業技術ハンドブックP1081～P1082参照） ◆列状間伐を導入する場合、伐採列と残存列の設定にあたっては、以下留意する ・常風の方向や積雪等の気象条件 ・将来の搬出路としての利用 ○病虫害被害拡大防止施策 ・枯れ枝落とし（間伐木以外を対象とする） ・つるきり など	○調査項目 ・広葉樹、草本類の樹種（種類）、密度、樹高、直径、被度 ・スギの樹高、直径、密度 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・下層植生（広葉樹含む）の侵入状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・スギ形状比 ・下層植生（広葉樹含む）の生育状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後10年程度～ ・長伐期択伐林への誘導状況（間伐の実施状況または計画の有無等）	

3 里山林整備

- (1) 目 標 林 型：階層構造が発達し、高木層は高木性広葉樹や針葉樹（クロマツ等）が優占している林分でかつ更新に必要な高木性広葉樹が存在する森林
- (2) 施 業 対 象 林 分：病虫害等により荒廃が進み森林の機能が低下した林分や人為的な補助作業なしでは更新が危惧される林分

林型区分	例	想定される整備手法（作業種）	調査項目、評価指標等		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
タイプA-1 【病虫害被害林分】 ・マツ材線虫病やナラ類集団枯損被害等により上層を形成していたアカマツやクロマツ、ナラ類などが枯損・枯死した林分 ・枯損木が立木のまま残っている		○枯損木（枯死木）の処理 伐倒・玉切り・集積など ○媒介する昆虫が羽化脱出する前の被害木が単的にある場合は薬剤処理による駆除も可（ただし枯損木処理の付随作業として実施） ○高木性広葉樹の刈出し 被圧している低木性樹種を中心に刈払い ○高木性広葉樹の植栽 （※自然力では回復できない区域でのみ実施） ・補助工として簡易掘工等の施工も可	○調査項目 ・広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・植栽木の樹高、直径、被度 ・高木性稚幼樹の樹種、密度 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・植栽木の生育状況 ○整備後10年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・植栽木の生育状況 ・階層別植被率 ○整備後20年程度～ ・階層別植被率 ・高木性広葉樹の稚幼樹の出現状況	○伐採した枯損木については二次被害が発生しないよう処理する
タイプA-2 【病虫害被害により高木層が消失した林分：海岸部】 ・マツ材線虫病により上層を形成していたクロマツが枯損・消失した林分 ・風背側には高木性広葉樹が生育している		○抵抗性クロマツ等の植栽 ・補助工として簡易掘工等の施工も可 ・風背側に高木性広葉樹が生育している場合は、ギャップ（人為的に形成するもの含む）に植栽できるだけ風による植栽木への影響を弱める手法をとる	○調査項目 ・植栽木の樹高、直径、被度 消失の有無 ・植栽木以外の高木性広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・高木性稚幼樹の樹種、密度 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・植栽木の生育状況 ・植栽木以外の高木性広葉樹の侵入状況 ○整備後5年程度～ ・植栽木の生育状況 ・植栽木以外の高木性広葉樹の侵入・生育状況 ○整備後10年程度～ ・植栽木を含めた高木性広葉樹の生育状況 ・階層別植被率	
タイプB 【海岸クロマツ林分】 ※庄内地域 ・ニセアカシアが侵入している林分 ・密度が高く被圧されているクロマツが散在する ・ツル類が巻きついている個体が多い		○ニセアカシアの伐採、薬剤処理 ○被圧されているクロマツの抜き切り ○伐倒木の処理（＝マツ材線虫病の予防のための林外搬出など） ○つる切り ○被害木の薬剤等による処理 ○クロマツ（抵抗性）の植栽	○調査項目 ・ニセアカシアの本数、樹高、被度 ・ニセアカシア以外の広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・クロマツの密度、樹高、直径 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・ニセアカシアの侵入状況 ・ニセアカシア以外の広葉樹の侵入状況 ○整備後5年程度～ ・ニセアカシアの侵入状況 ・ニセアカシア以外の広葉樹の侵入・生育状況 ・クロマツの生育状況	

林型区分	例	想定される整備方法（作業種）	評価指標		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
タイプC 【上層過密林分】 ・林内には倒木や枯死木（株立ちの中の枯損した幹を含む）が発生している ・更新に必要な高木性広葉樹の稚幼樹が非常に少ない ・萌芽更新に必要な高木性広葉樹の萌芽が非常に少ない ・下層植生が非常に少なく林地崩壊や土砂流出が危惧される		○抜切り（受光伐） 伐倒・玉切り・集積など ○枯損木の処理 伐倒・玉切り・集積など ○高木性広葉樹の刈り出し 被圧している低木性樹種を中心に刈払い ○高木性広葉樹の植栽 （※自然力では回復できない区域でのみ実施） ・補助工として簡易掘工等の施工も可 ○つる切り	○調査項目 ・高木性広葉樹稚幼樹の樹種、密度、樹高、直径 ・広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・植栽木の樹高、直径、被度、消失の有無 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の樹稚幼樹の出現・生育状況 ・高木性広葉樹（亜高木層・低木層）の生育状況 ・植栽木の生育状況 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の樹稚幼樹の出現・生育状況 ・高木性広葉樹（亜高木層・低木層）の生育状況 ・植栽木の生育状況 ・階層別植被率	

資料 4 やまがた緑環境税に関するアンケート結果

◆調査対象：県政アンケート

<調査の概要>

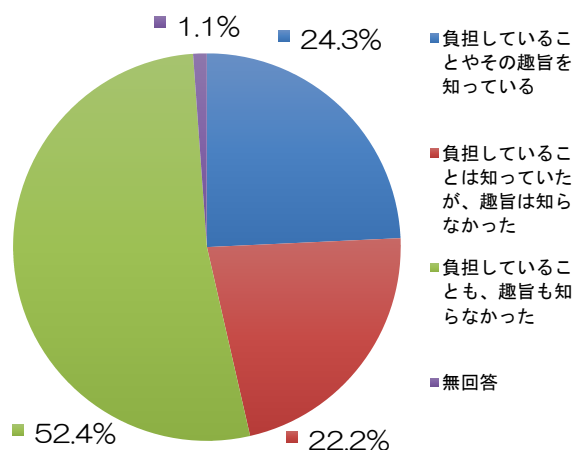
- 1 対象：県内在住の 18 歳以上の個人 2,500 人
- 2 期間：令和 7 年 8 月中旬～9 月上旬
- 3 回答：1,428 名

・郵送によるアンケート調査を実施
(回答は郵送またはインターネットから選択)

問 1 「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていましたか。(1つ選択)

認知度

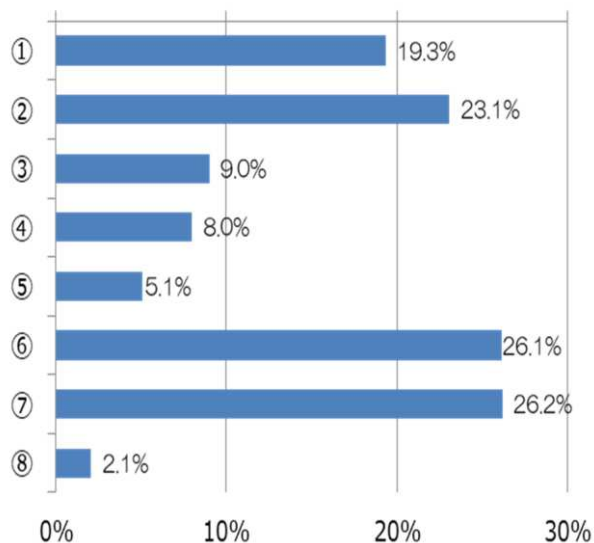
- | |
|-----------------------------|
| ① 負担していることやその趣旨を知っている |
| ② 負担していることは知っていたが、趣旨は知らなかった |
| ③ 負担していることも、趣旨も知らなかった |
| ④ 無回答 |



問 2 県民みんなで支える森づくりのために、あなたは、どのようなことに参加・協力したいと思いますか。(3つまで選択)

参加協力したいこと

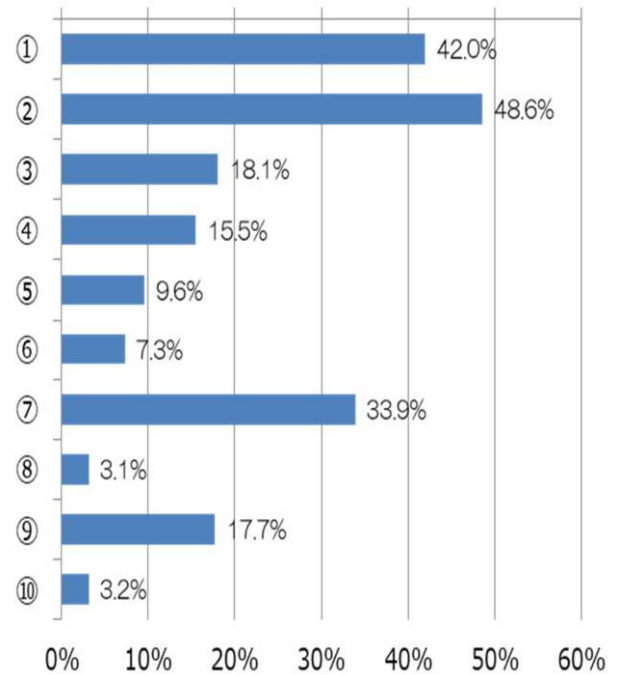
- | | |
|---|--|
| ① | 植樹祭などのイベントに参加したり、身近な県民の森などで自然に触れることにより森林に親しみ、その働きを学びたい |
| ② | 県産材を使った木製品や、ベレットストーブを使うなど、県産木材資源の活用に関心がある |
| ③ | 森林や自然環境の大切さを伝える、自然環境教育などのボランティア活動に関心がある |
| ④ | 植林や枝打ち、下刈りなどの森の手入れ、森林バトロールなど、森林環境保全のためのボランティア活動に関心がある |
| ⑤ | その他 |
| ⑥ | 特に参加・協力したいと思うことはない |
| ⑦ | わからない |
| ⑧ | 無回答 |



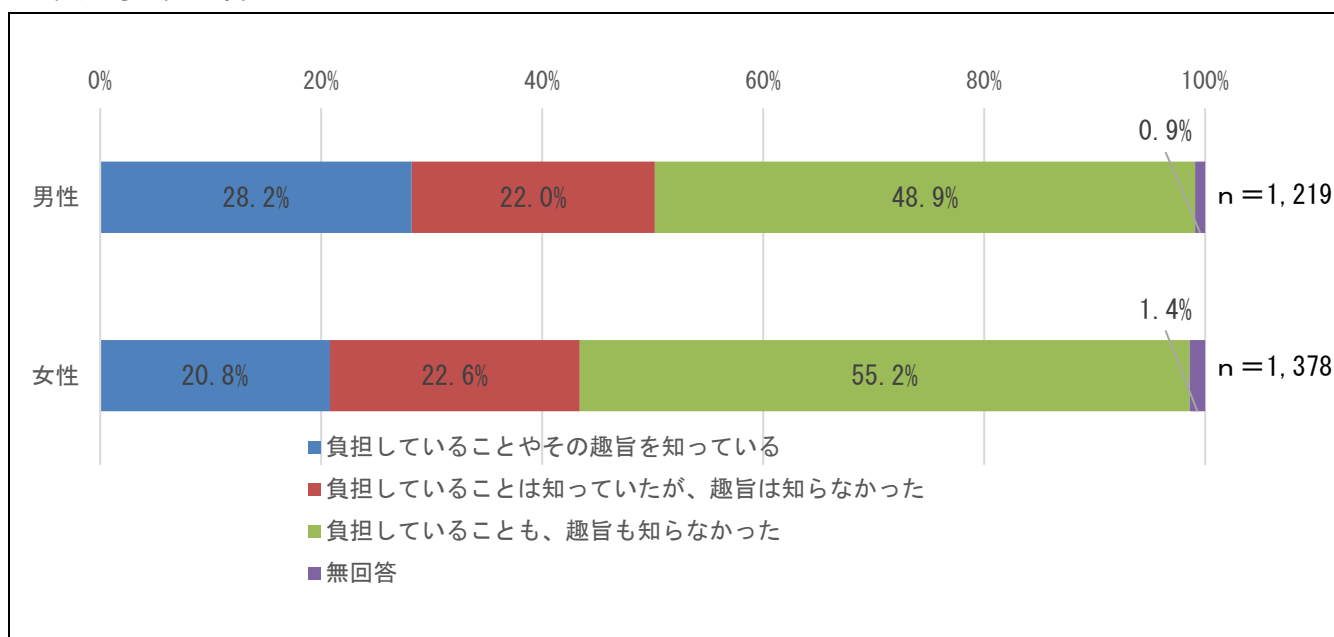
問3 やまがた緑環境税を活用した森づくりを進めるにあたって、あなたは、どのような取組みが重要だと思いますか。（3つまで選択）

重要な取組み

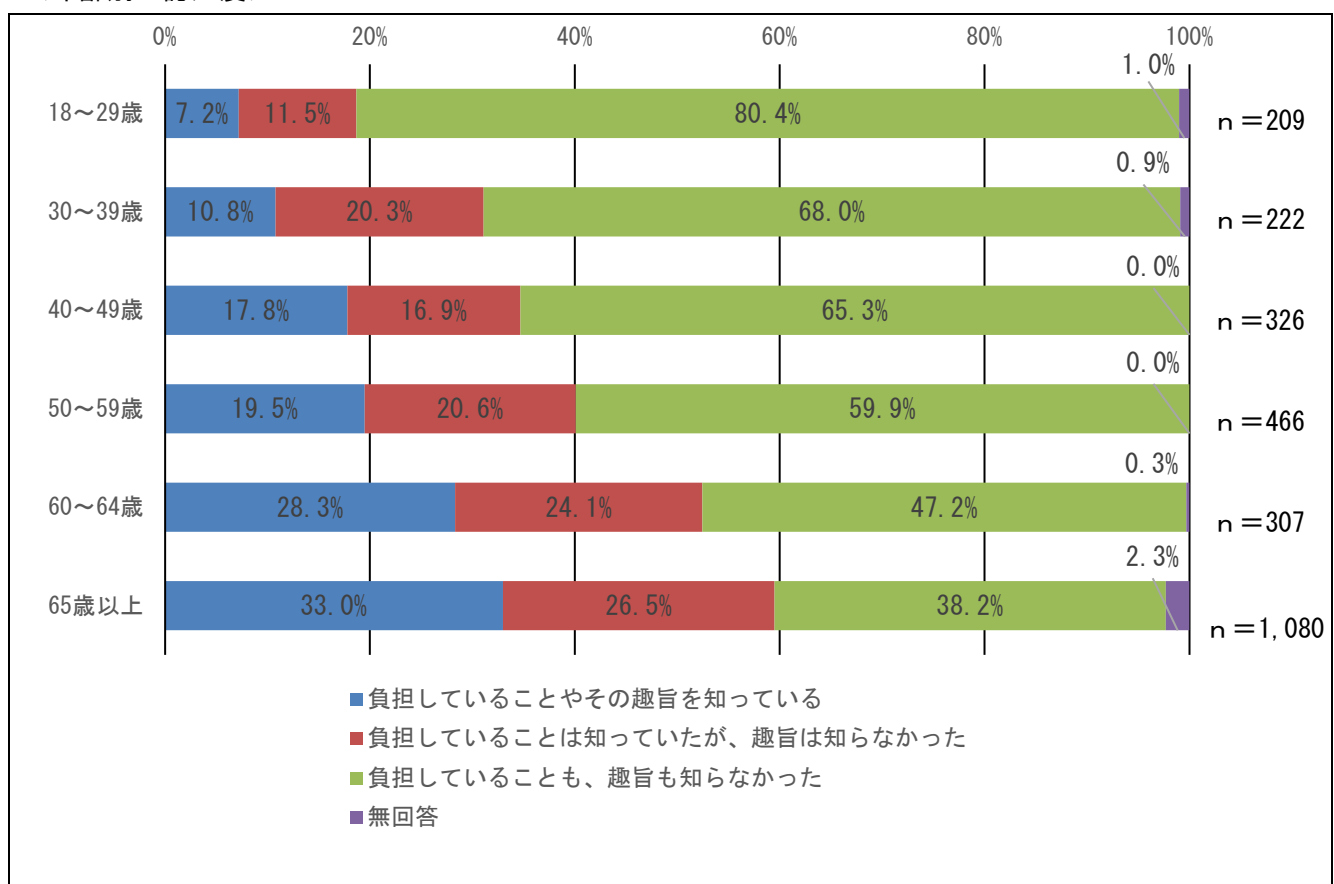
①	荒廃のおそれのある里山などの森林を、環境保全機能の高い森林へ再生する取組み
②	将来にわたって森林を守り育てるため、管理放棄をした森林所有者に代わって森林組合などが管理を行う仕組みづくり
③	森づくり体験や自然観察会などの体験型・参加型のイベントの開催による、県民と森や自然環境との触れ合いの機会の拡大
④	身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取組み
⑤	森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進
⑥	森づくりに対する県民の理解を深めるため、森林を学び森林に親しむための講座などの開催
⑦	森林内に放置されている未利用木材を熱エネルギー源などに有効利用し、資源の循環利用を進める取組み
⑧	その他
⑨	わからない
⑩	無回答



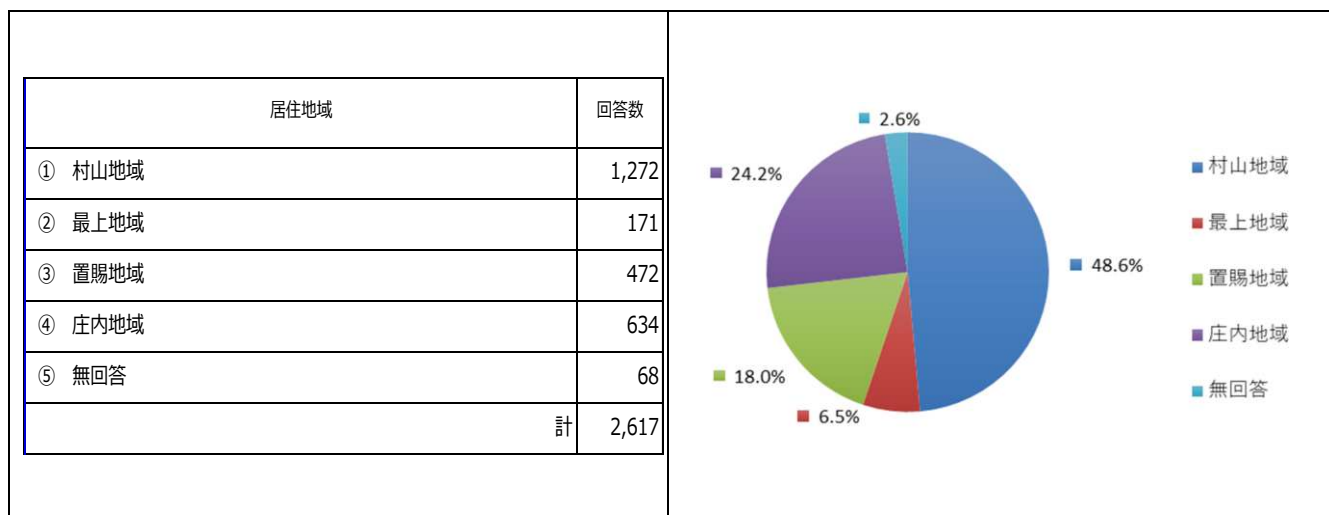
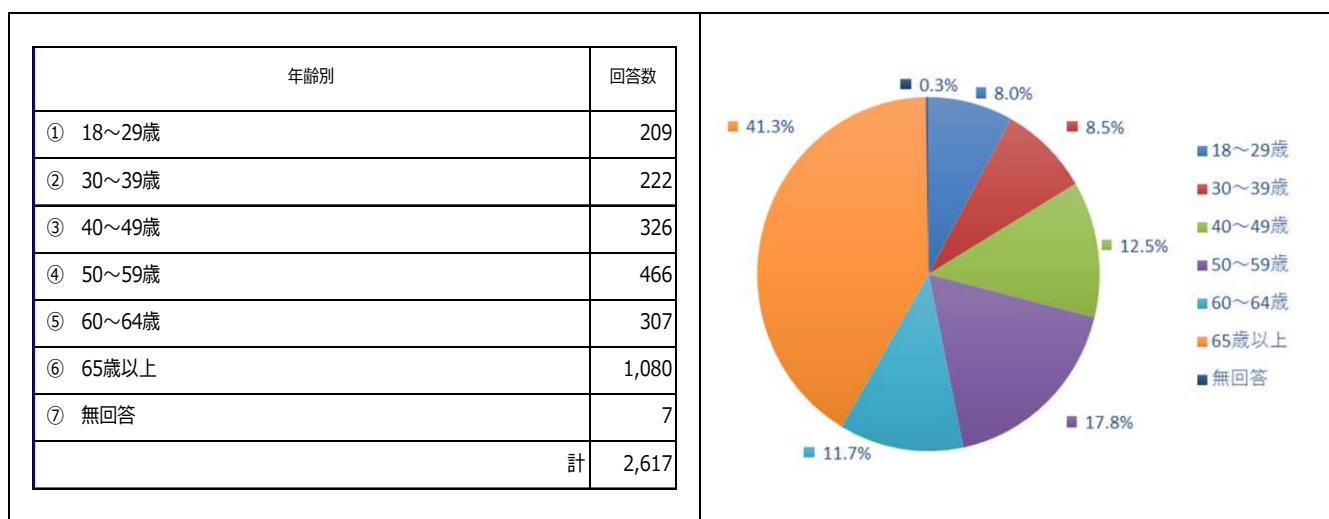
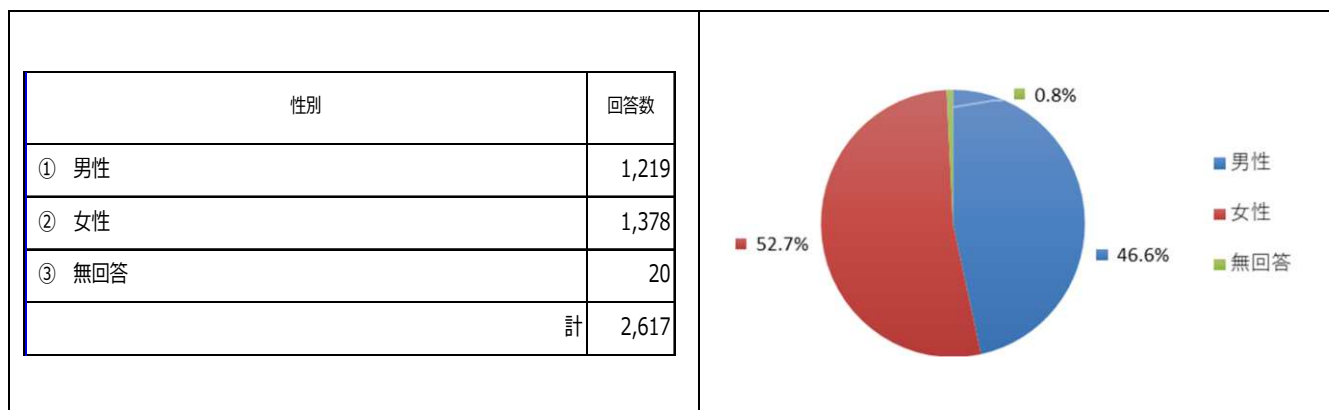
<性別毎の認知度>



<年齢別の認知度>



<調査対象の属性>



※ 地域別の抽出率が異なるため、回答数 1,428 件に集計ウェイトを加重して規正し、2,617 件に補正。

◆調査対象：個人

<調査の概要>

- 1 対 象：県内居住の満 18 歳以上の個人
- 2 期 間：令和 7 年 8 月～11 月
- 3 回 答：1,355 名

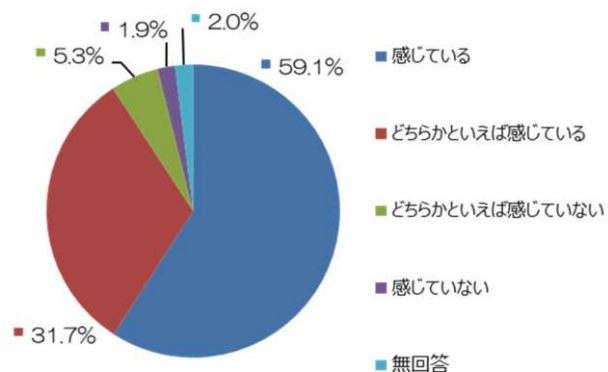
- ・ 各種イベント開催時や窓口等において、任意によるアンケート調査を実施。

<実施箇所>

- ・ 県林業まつり
- ・ やまがた環境展
- ・ 環境フェア（鶴岡）
- ・ 庄内森と緑のフェスティバル（酒田・鶴岡）
- ・ 森づくり発表会
- ・ 遊学の森
- ・ 各総合支庁窓口
- ・ 35 市町村窓口
- ・ インターネット

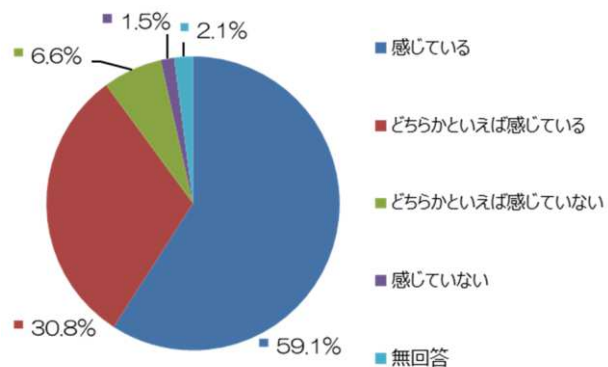
問 1 あなたは、「森のある幸せ」を感じていますか。（1つ選択）

幸福度	回答数
① 感じている	801
② どちらかといえば感じている	429
③ どちらかといえば感じていない	72
④ 感じていない	26
⑤ 無回答	27
計	1,355



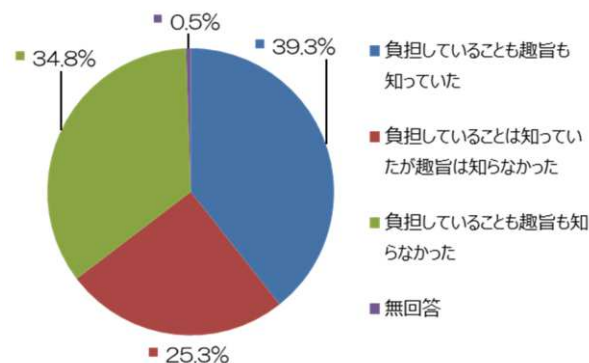
問 2 あなたは、森を身近に感じていますか。（1つ選択）

親近感	回答数
① 感じている	801
② どちらかといえば感じている	417
③ どちらかといえば感じていない	89
④ 感じていない	20
⑤ 無回答	28
計	1,355



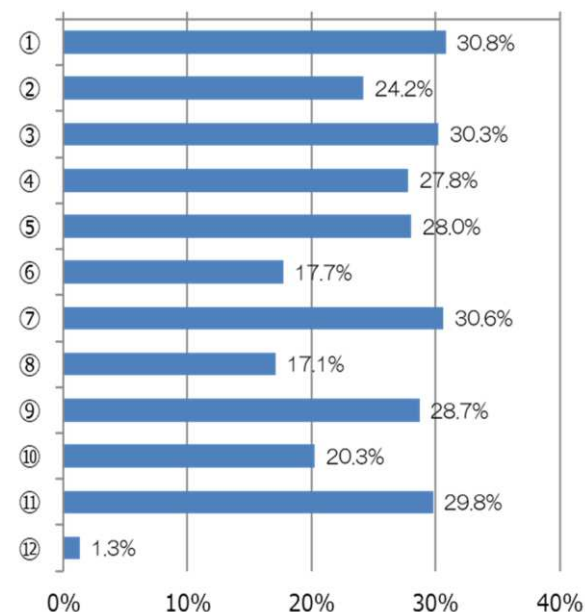
問3 あなたは「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていますか。（1つ選択）

認知度	回答数
① 負担していることも趣旨も知っていた	533
② 負担していることは知っていたが趣旨は知らなかった	343
③ 負担していることも趣旨も知らなかった	472
④ 無回答	7
計	1,355



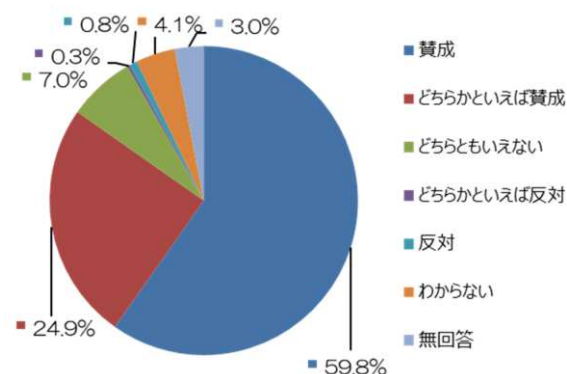
問4 やまがた緑環境税は次の事業に活用されていますが、知っていますか。（知っているもの全て選択）

事業の認知度	回答数
① スギ人工林に広葉樹を導入し、水資源の保全など公益機能の高い森林を育成	418
② 再造林や間伐などの施業を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築	328
③ 被害木の伐採などにより、病虫害等で荒れた里山林を再生	410
④ 未利用木材を、木質バイオマス燃料などとして有効利用する取組み	377
⑤ 森づくり体験や自然観察会などの体験型イベントの開催による、森や自然環境との触れ合いの機会の拡大	380
⑥ 身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取組み	240
⑦ 森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進	415
⑧ 企業が、県や森林所有者と協働で森づくり活動を行う「やまがた絆の森」の推進	232
⑨ 小学生等を対象とした森林を学び、森林や木材に親しむためのやまがた木育プログラム体験会などの開催	389
⑩ クマなどの野生動物や希少な動植物、山の実りなど、森林内の生き物に関する調査	275
⑪ わからない	404
⑫ 無回答	18



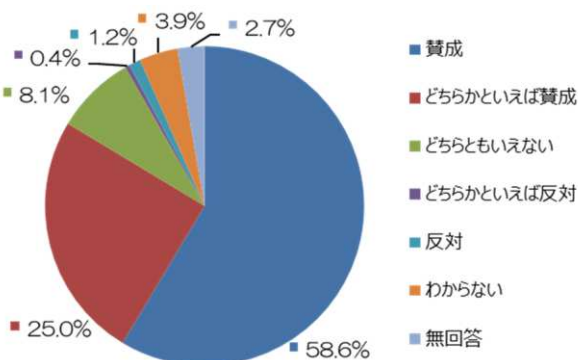
問5 あなたは、これまでやまがた緑環境税を活用して進めてきた取組みについてどう思いますか。
(1つ選択)

使いみち	回答数
① 賛成	810
② どちらかといえば賛成	338
③ どちらともいえない	95
④ どちらかといえば反対	4
⑤ 反対	11
⑥ わからない	56
⑦ 無回答	41
計	1,355



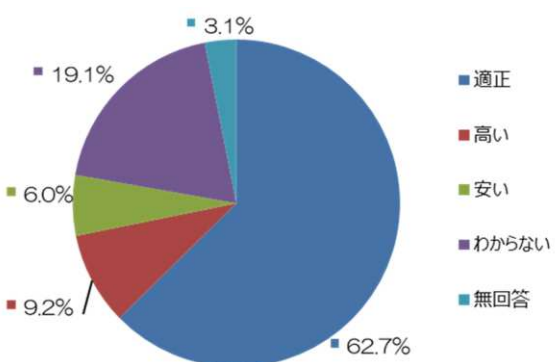
問6 今後も引き続きやまがた緑環境税を継続することについて、あなたはどのように考えますか。
(1つ選択)

継続	回答数
① 賛成	794
② どちらかといえば賛成	339
③ どちらともいえない	110
④ どちらかといえば反対	6
⑤ 反対	16
⑥ わからない	53
⑦ 無回答	37
計	1,355



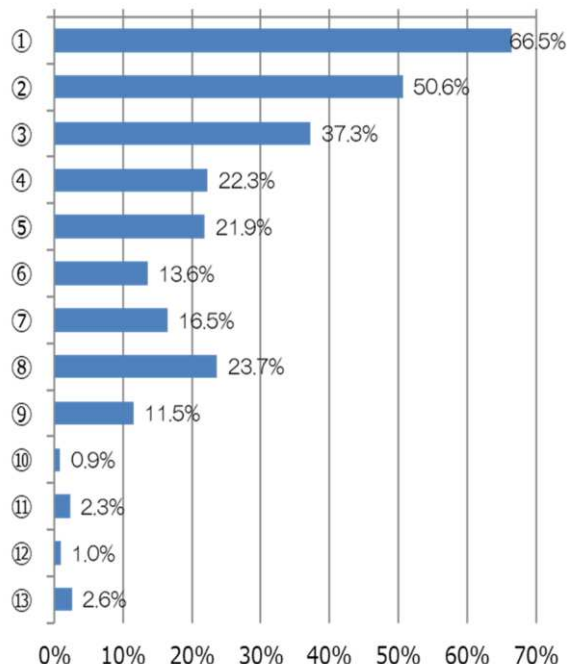
問7 やまがた緑環境税の税額について、あなたはどのように考えますか。(1つ選択)

税額	回答数
① 適正	849
② 高い	124
③ 安い	81
④ わからない	259
⑤ 無回答	42
計	1,355



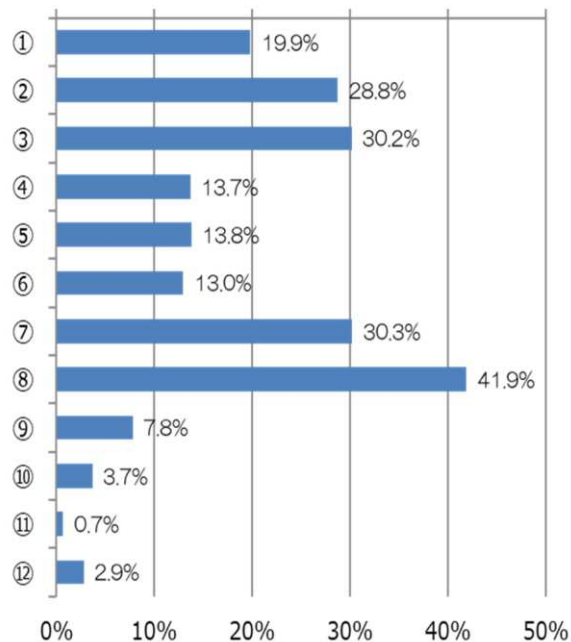
問 8 あなたは、今後、森林のどのような働きに期待しますか（3つまで選択）

森林の働き		回答数
①	山崩れや洪水などの災害を防止する働き	901
②	地球温暖化防止に貢献する働き	686
③	水資源を蓄える働き	505
④	空気をきれいにしたり、騒音をやわらげる働き	302
⑤	心身の癒しや安らぎの場を提供する働き	297
⑥	住宅用建材や家具、紙、バイオマスエネルギーなどの原材料となる木材を生産する働き	184
⑦	貴重な野生動植物の生息の場としての働き	223
⑧	自然に親しみ、森林と人とのかわわりを学ぶなど教育の場としての働き	321
⑨	きのこや山菜などの林産物を生産する働き	156
⑩	特になし	12
⑪	わからない	31
⑫	その他	13
⑬	無回答	35

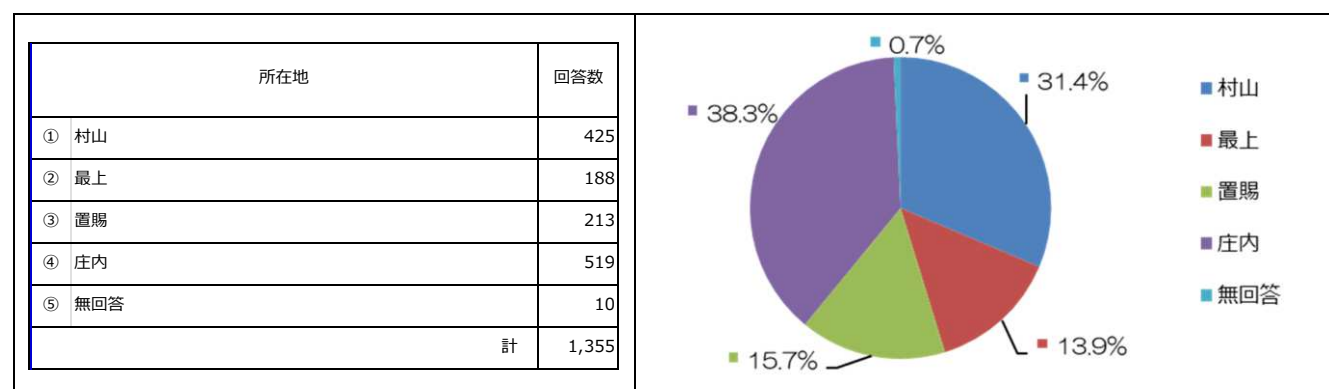
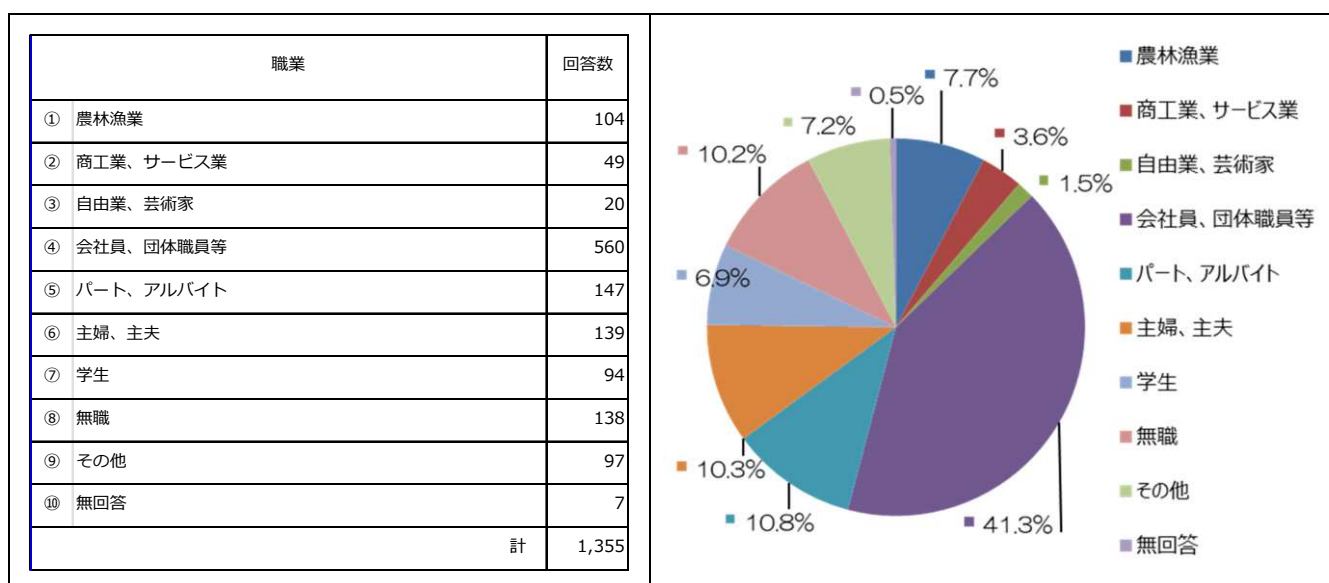
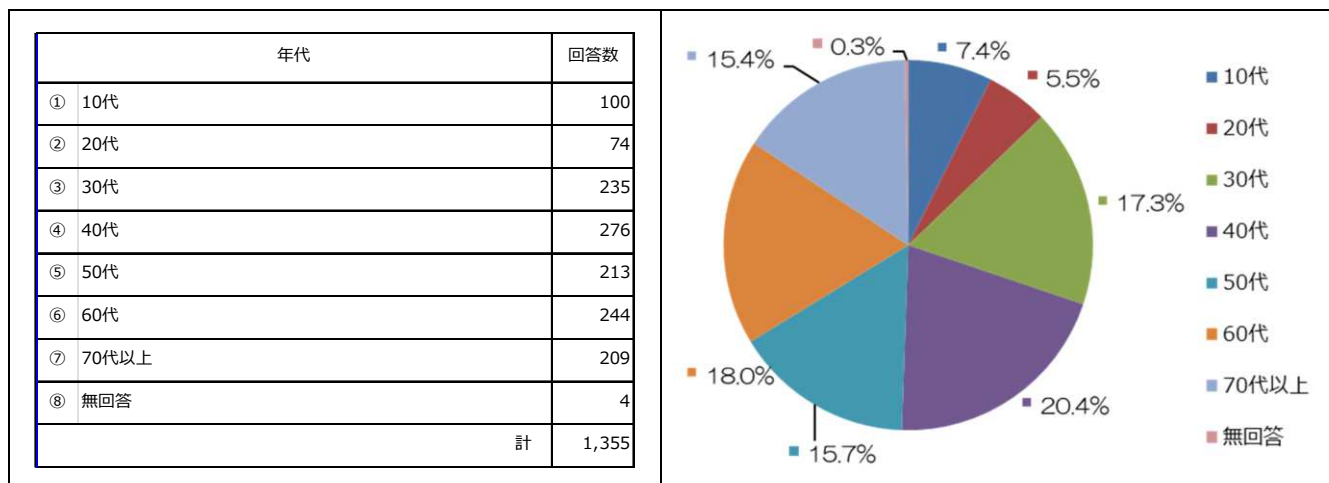
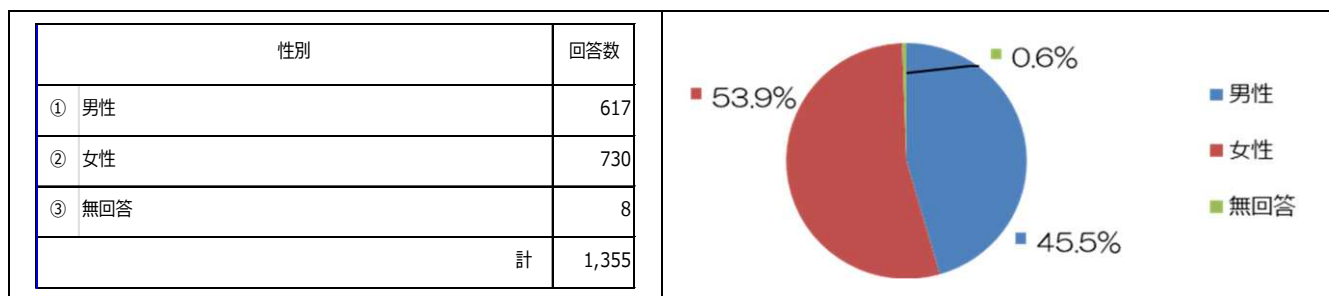


問 9 あなたは、森林に関わることでどのようなことをしてみたいと思いますか。（3つまで選択）

森林との関わり		回答数
①	植林や下刈りなどの育林作業に参加したい	269
②	県民の森など身近で安心な場所で森林に親しみ、森の案内人の方々から様々な知識を学びたい	390
③	山形県産の木製品や薪を使うなど、県産木材資源の活用に関心したい	409
④	やまがた木育（森林環境教育や木づかい運動）について学び、指導者として活動に関心したい	186
⑤	森林内に生息する動植物の保全活動や、生き物調査に参加したい	187
⑥	気の合う仲間とサークルを作り、自然の中で行う様々な活動に関心したい	176
⑦	山菜やきのこを育てることで、山の恵み・大切さを実感したい	410
⑧	森林浴により心身の気分転換を図りたい	568
⑨	特になし	106
⑩	わからない	50
⑪	その他	10
⑫	無回答	39



<調査対象の属性>



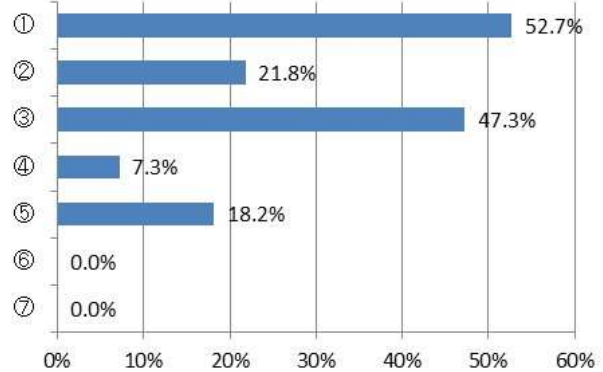
◆調査対象：公募団体

＜調査の概要＞

- 1 対 象：「みどり豊かな森林環境づくり推進事業」の「県民提案型事業」実施団体
- 2 期 間：令和7年8月～11月
- 3 回 答：55団体

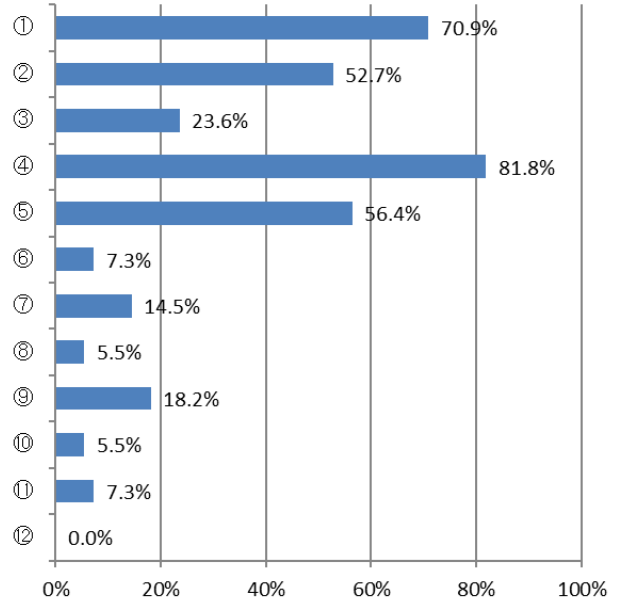
問1 貴団体は、「みどり豊かな森林環境づくり推進事業（以下、「豊かな事業」という）」について、何により知りましたか。（該当するものをすべて選択）

広報媒体	回答数
① 県のHPや広報紙・パンフレット	29
② 市町村のHPや広報紙・パンフレット	12
③ 県や市町村の担当課	26
④ 新聞・マスコミ	4
⑤ 他の活動団体から	10
⑥ その他	0
⑦ 無回答	0



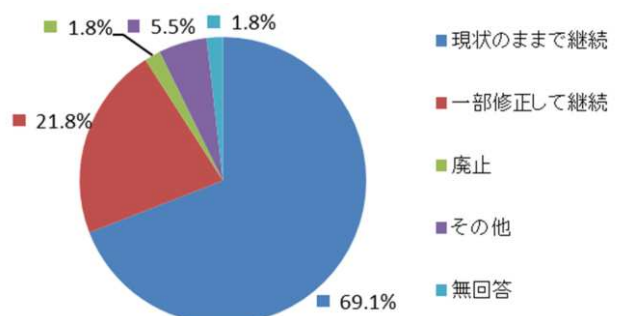
問2 豊かな事業の実施により、どのような成果があったとお考えですか。（該当するもの全て選択）

事業効果	回答数
① 森林に係る地域活動の活性化	39
② 森づくり活動による地域間交流の拡大	29
③ 森林・林業に関心がある住民の増加	13
④ 子ども達への森林環境教育の充実化	45
⑤ 森林整備による地域環境の改善	31
⑥ 林業後継者の育成	4
⑦ 野生動物との共存	8
⑧ 希少野生動植物の保全	3
⑨ 県産材の利活用、普及促進	10
⑩ 木質バイオマスの利活用	3
⑪ その他	4
⑫ 無回答	0



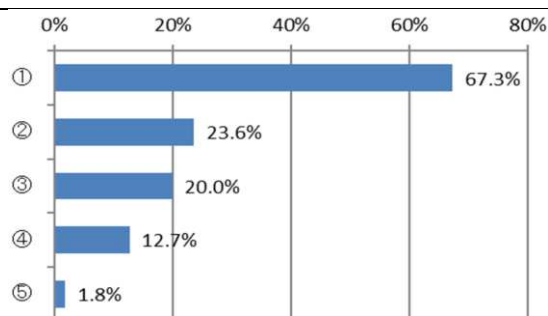
問3 豊かな事業の今後（令和9年度以降）の展開について、どのようにお考えですか。（1つ選択）

今後の展開	回答数
① 現状のままで継続	38
② 一部修正して継続	12
③ 廃止	1
④ その他	3
⑤ 無回答	1
計	55



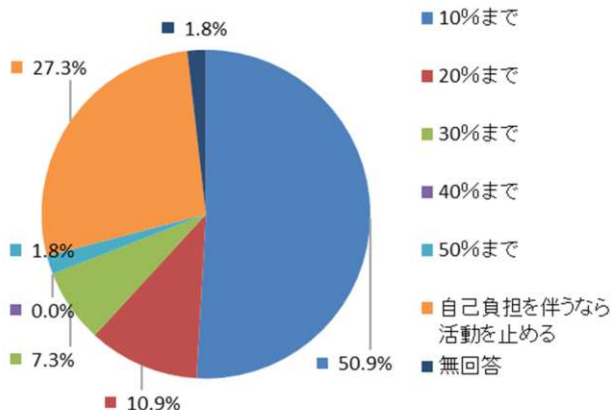
問5 貴団体の活動経費に関する豊かな事業以外の財源についてお尋ねします。(該当するもの全て選択)

豊かな事業以外の財源	回答数
① 会員から定期的に会費を徴収している	37
② 活動毎に参加者から参加費を徴収している	13
③ その他の財源	11
④ 豊かな事業以外に財源は無い	7
⑤ 無回答	1



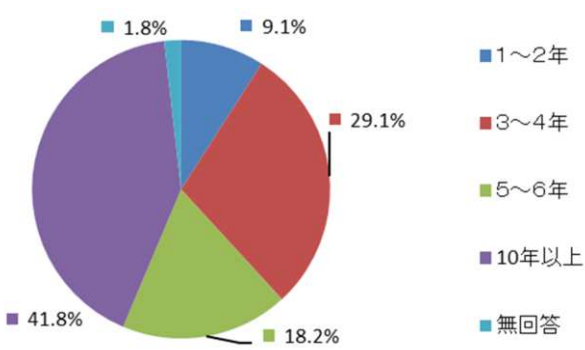
問6 どれくらいまでの自己負担が可能と思われますか。(1つ選択)

自己負担可能な割合	回答数
① 10%まで	28
② 20%まで	6
③ 30%まで	4
④ 40%まで	0
⑤ 50%まで	1
⑥ 自己負担を伴うなら活動を止める	15
⑦ 無回答	1
計	55



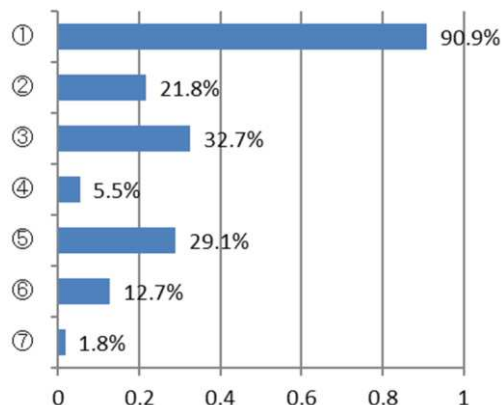
問7 豊かな事業への連続申請期間は何年位が適当と考えますか。(1つ選択)

連続申請期間	回答数
① 1～2年	5
② 3～4年	16
③ 5～6年	10
④ 10年以上	23
⑤ 無回答	1
計	55

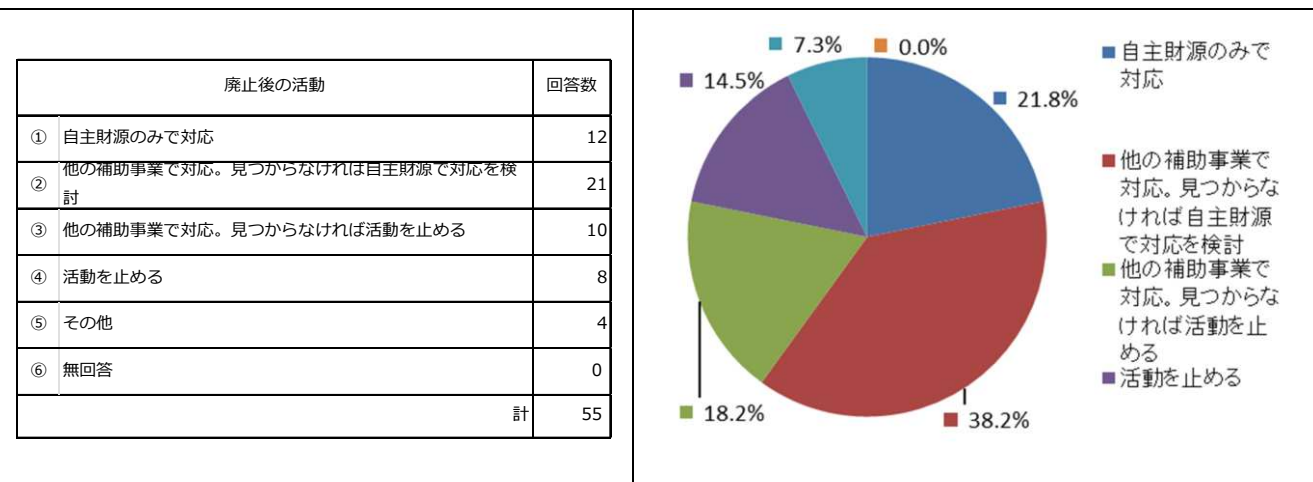


問8 貴団体が、継続的かつ実践的な森づくり活動を進めていく上で、どのような支援が必要ですか。(3つまで選択)

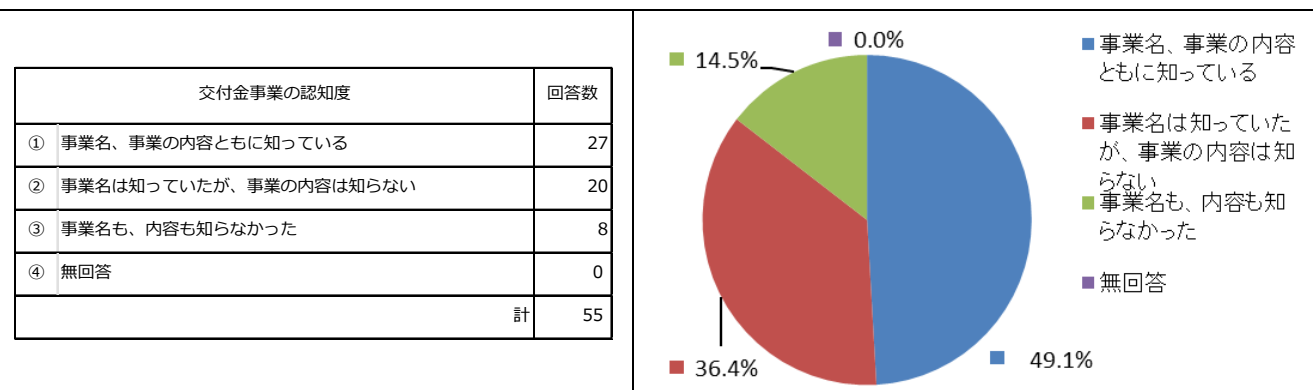
必要な支援	回答数
① 活動に必要な経費	50
② 森づくりフィールド等情報の提供	12
③ 活動時の技術的支援	18
④ クワなどの資材の貸出	3
⑤ 団体指導者クラスの研修・育成	16
⑥ その他	7
⑦ 無回答	1



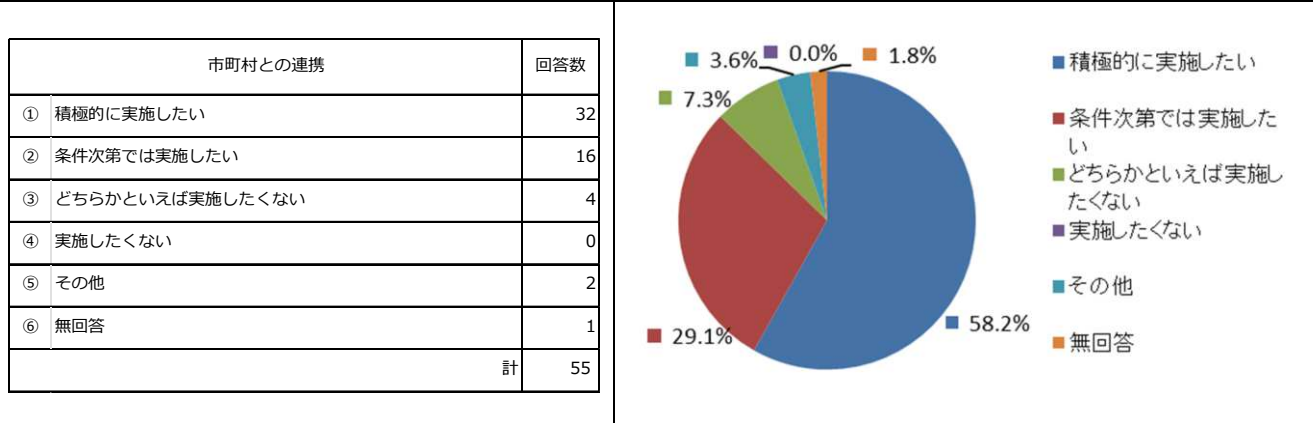
問9 豊かな事業が廃止となった場合、現在の活動についてどう対応しますか。(1つ選択)



問10 「やまがた緑環境交付金事業」をご存じですか。(1つ選択)



問11 市町村と密接に連携しながら市町村内の森づくり活動を協働で実施していくことについて、どのようにお考えですか。(1つ選択)



※ 問4は記述式のため省略。

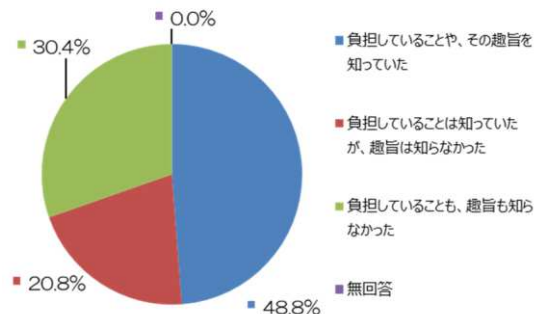
◆調査対象：法人

<調査の概要>

- 1 対象：山形県法人会連合会 会員
- 2 期間：令和7年8月～10月
- 3 回答：168社

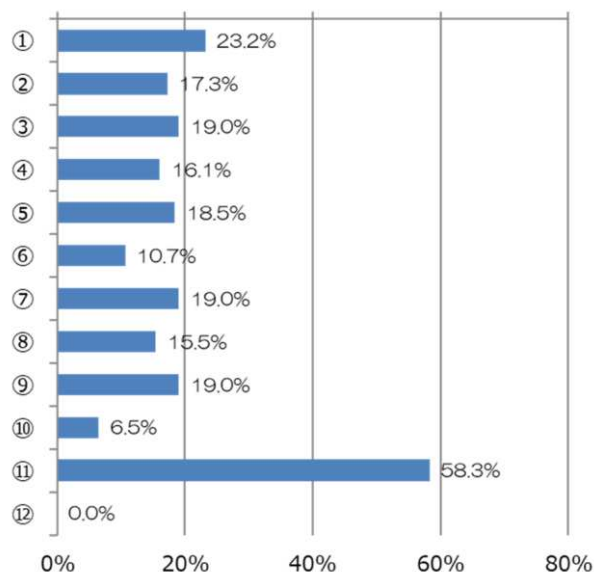
問1 貴社は「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていますか。（1つ選択）

認知度	回答数
① 負担していることや、その趣旨を知っていた	82
② 負担していることは知っていたが、趣旨は知らなかった	35
③ 負担していることも、趣旨も知らなかった	51
④ 無回答	0
計	168



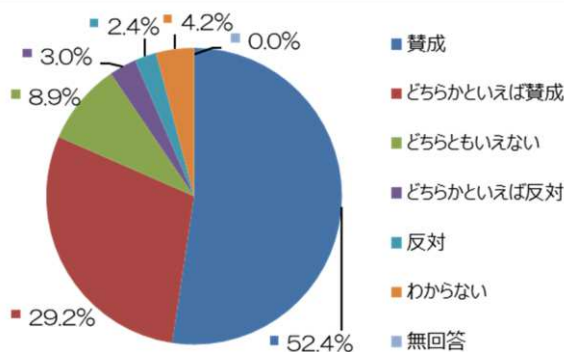
問2 やまがた緑環境税は次の事業に活用されていますが、知っていますか。（知っているもの全て選択）

事業の認知度	回答数
① スギ人工林に広葉樹を導入し、水資源の保全など公益的機能の高い森林を育成	39
② 再造林や間伐などの施業を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築	29
③ 被害木の伐採などにより、病害虫等で荒れた里山林を再生	32
④ 未利用木材を、木質バイオマス燃料などとして有効利用する取組み	27
⑤ 森づくり体験や自然観察会などの体験型イベントの開催による、森や自然環境との触れ合いの機会拡大	31
⑥ 身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取組み	18
⑦ 森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進	32
⑧ 企業が、県や森林所有者と協働で森づくり活動を行う「やまがた緑の森」の推進	26
⑨ 小学生等を対象とした森林を学び、森林や木材に親しむためのやまがた木育プログラム体験会などの開催	32
⑩ クマなどの野生動物や希少な動植物、山の裏りなど、森林内の生き物に関する調査	11
⑪ わからない	98
⑫ 無回答	0



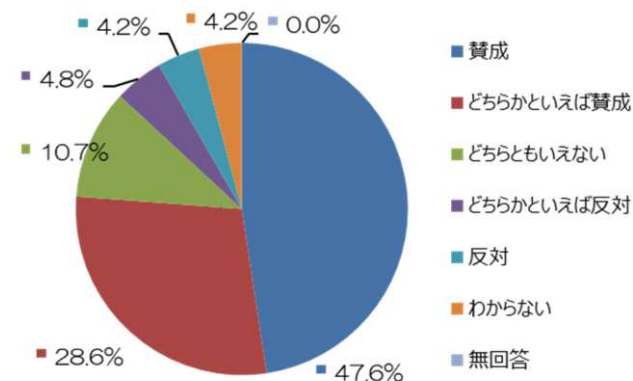
問3 貴社は、これまでやまがた緑環境税を活用して進めてきた取組みについてどう思いますか。（1つ選択）

使いみち	回答数
① 賛成	88
② どちらかといえば賛成	49
③ どちらともいえない	15
④ どちらかといえば反対	5
⑤ 反対	4
⑥ わからない	7
⑦ 無回答	0
計	168



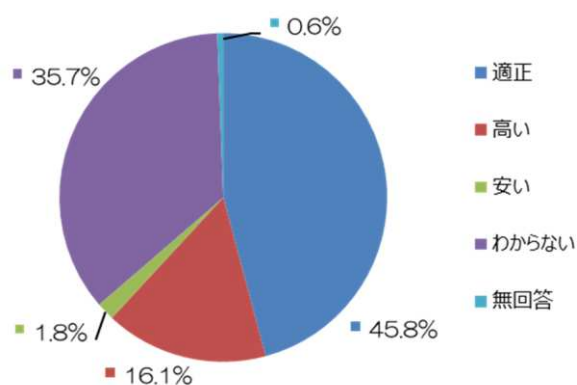
問4 今後も引き続きやまがた緑環境税を継続することについて、貴社はどのように考えますか。
(1つ選択)

継続	回答数
① 賛成	80
② どちらかといえば賛成	48
③ どちらともいえない	18
④ どちらかといえば反対	8
⑤ 反対	7
⑥ わからない	7
⑦ 無回答	0
計	168



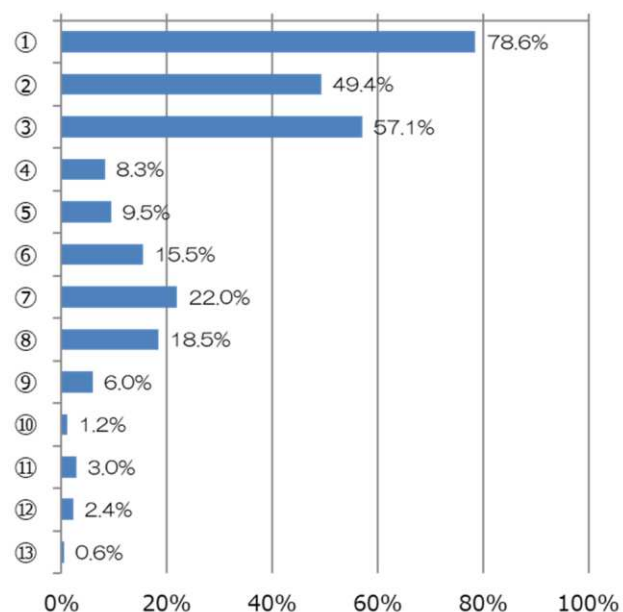
問5 やまがた緑環境税の税額について、貴社はどのように考えますか。(1つ選択)

税額	回答数
① 適正	77
② 高い	27
③ 安い	3
④ わからない	60
⑤ 無回答	1
計	168



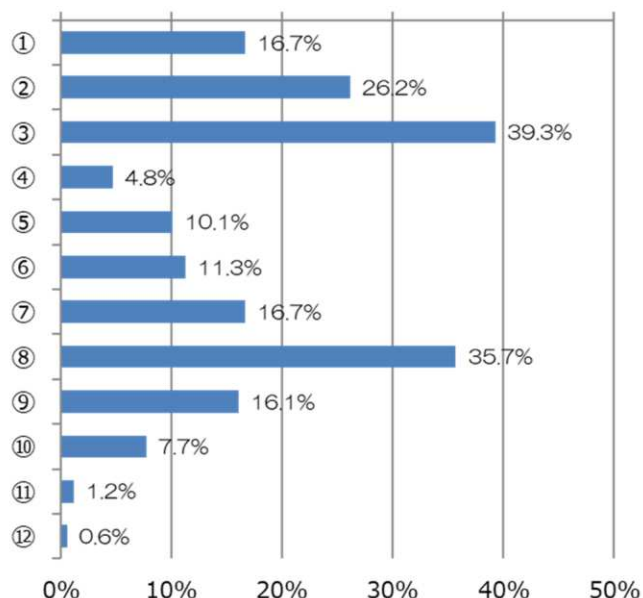
問6 貴社は、今後、森林のどのような働きに期待しますか。(3つまで選択)

森林の働き	回答数
① 山崩れや洪水などの災害を防止する働き	132
② 地球温暖化防止に貢献する働き	83
③ 水資源を蓄える働き	96
④ 空気をきれいにしたり、騒音をやわらげる働き	14
⑤ 心身の癒しや安らぎの場を提供する働き	16
⑥ 住宅用建材や家具、紙、バイオマスエネルギーなどの原材料となる木材を生産する働き	26
⑦ 貴重な野生動植物の生息の場としての働き	37
⑧ 自然に親しみ、森林と人とのかわわりを学ぶなど教育の場としての働き	31
⑨ きのことや山菜などの林産物を生産する働き	10
⑩ 特にない	2
⑪ わからない	5
⑫ その他	4
⑬ 無回答	1



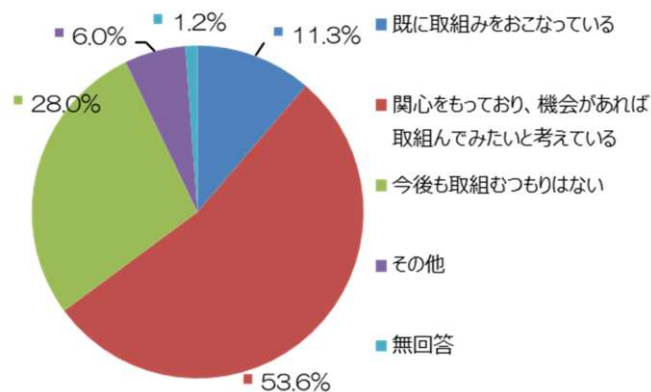
問7 あなたは、森林に関わることでどのようなことをしてみたいと思いますか。(3つまで選択)

森林との関わり	回答数
① 植林や下刈りなどの育林作業に参加したい	28
② 県民の森など身近で安心な場所で森林に親しみ、森の案内人の方々から様々な知識を学びたい	44
③ 山形県産の木製品や薪を使うなど、県産木材資源の活用に関心したい	66
④ やまがた木育(森林環境教育や木づかい運動)について学び、指導者として活動に関心したい	8
⑤ 森林内に生息する動植物の保全活動や、生き物調査に関心したい	17
⑥ 気の合う仲間とサークルを作り、自然の中で行う様々な活動に関心したい	19
⑦ 山菜やきのこを育てることで、山の恵み・大切さを実感したい	28
⑧ 森林浴により心身の気分転換を図りたい	60
⑨ 特になし	27
⑩ わからない	13
⑪ その他	2
⑫ 無回答	1



問8 貴社は、森林を活用した社会貢献活動(CSR)を行ってみたいと思いますか。(1つ選択)

社会貢献活動	回答数
① 既に取組みをおこなっている	19
② 関心をもっており、機会があれば取組んでみたいと考えている	90
③ 今後も取組むつもりはない	47
④ その他	10
⑤ 無回答	2
計	168



◆調査対象：森林所有者

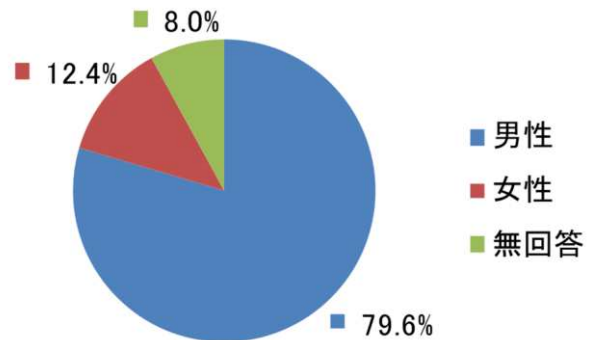
<調査の概要>

- 1 対 象：やまがた緑環境税を活用して森林整備を実施した森林所有者
- 2 期 間：令和7年10月～11月
- 3 回 答：426名

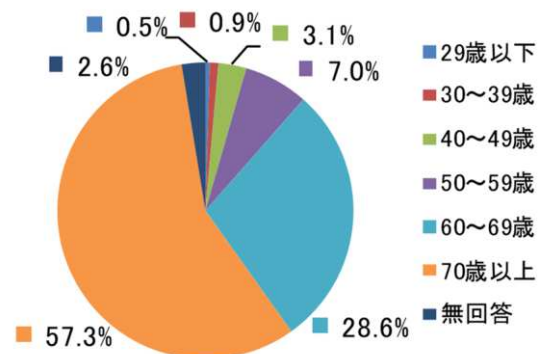
・ 郵送によるアンケート調査を実施

問1 御自身についてお伺いします。(性別と年齢)

性別		回答数
①	男性	339
②	女性	53
③	無回答	34
	計	426

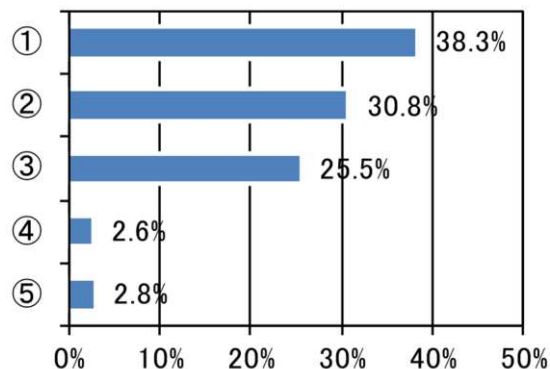


年齢		回答数
①	29歳以下	2
②	30～39歳	4
③	40～49歳	13
④	50～59歳	30
⑤	60～69歳	122
⑥	70歳以上	244
⑦	無回答	11
	計	426



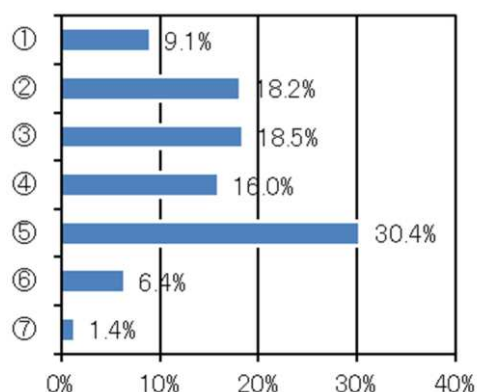
問2 このたびやまがた緑環境税を活用した森林の手入れに同意していただいた理由をお答えください。

森林の手入れに同意していただいた理由		回答数
①	自己負担がなかった	189
②	手入れの必要性を感じた	152
③	森林組合から勧められた	126
④	その他	13
⑤	無回答	14
計		494



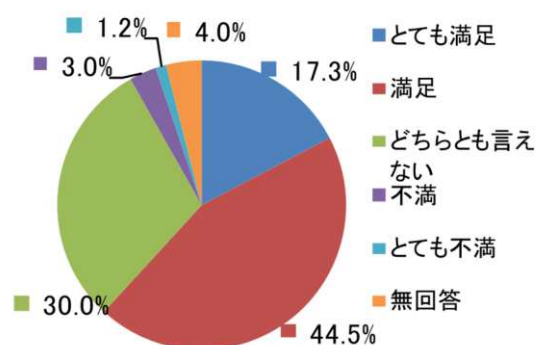
問3 やまがた緑環境税により森林が手入れされる以前に、御自身で森林の手入れを行わなかった（できなかった）理由をお答えください。（複数回答可）

手入れができなかった理由		回答数
①	森林に関心がない	65
②	森林にお金をかけたくない	130
③	自分が所有している森林の所在地が分からない	132
④	手入れの方法（誰に相談したら良いのか）が分からない	114
⑤	森林の手入れを行う体力がない	217
⑥	その他	46
⑦	無回答	10
計		714



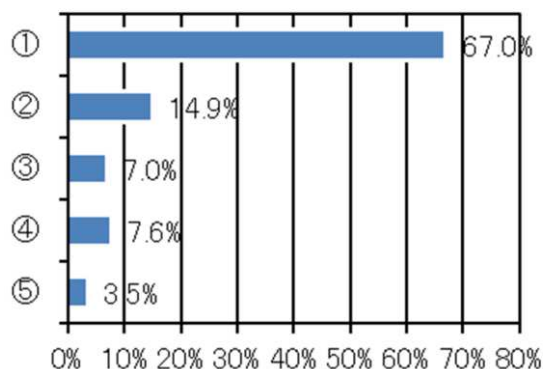
問4-1 やまがた緑環境税により手入れが行われた森林について、どう思いますか。

事業を行っての感想		回答数
①	とても満足	74
②	満足	190
③	どちらとも言えない	128
④	不満	13
⑤	とても不満	5
⑥	無回答	17
計		427



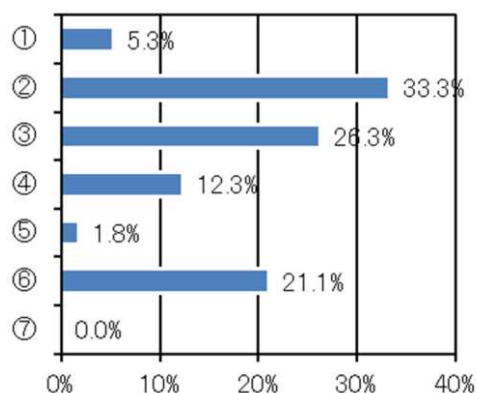
問４－２ 問４－１で１または２とお答えになった方にお伺いします。どの点に満足されましたか。

事業を行っての感想		回答数
①	森林がきれいになった	211
②	土地の境界(森林の所有界)が明確になった	47
③	森林に行く道が出来た	22
④	その他	24
⑤	無回答	11
計		315



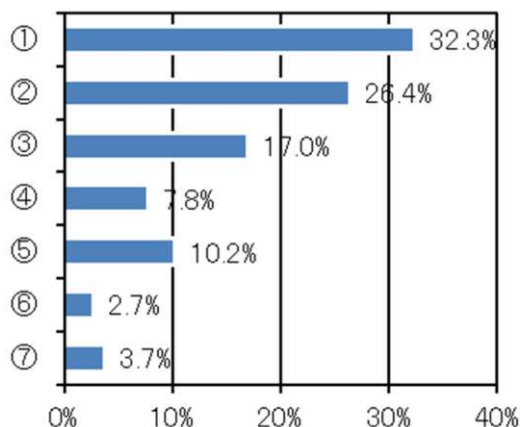
問４－３ 問４－１で４または５とお答えになった方にお伺いします。どの点に不満を感じられましたか。

事業を行っての感想		回答数
①	思った以上に木を伐られた	3
②	もっと木を伐って欲しかった	19
③	伐った木が森林に放置されたままであった	15
④	自分の森林に道を通してもらいたかった	7
⑤	自分の森林に道を通してもらいたくなかった	1
⑥	その他	12
⑦	無回答	0
計		57



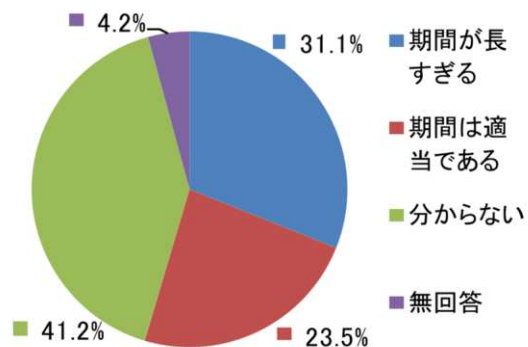
問５－１ やまがた緑環境税による森林の手入れを行う際に皆様と結ぶ協定書においては、森林の皆伐（全て伐ること）を禁止するなど、協定期間（20 年間）中は森林の持続的な管理が行われるようお願いをしています。あなたが所有する森林について、今後の管理をどのようにお考えですか。

今後の管理について		回答数
①	森林を管理できる自信がない	158
②	森林の管理ができるか分からないが、所有は続けたい	129
③	全て伐りたい（又は売り払いたい）	83
④	金銭的な助成があれば、手入れを考えてみたい	38
⑤	森林の取扱い等について森林組合と相談してみたい	50
⑥	その他	13
⑦	無回答	18
計		489



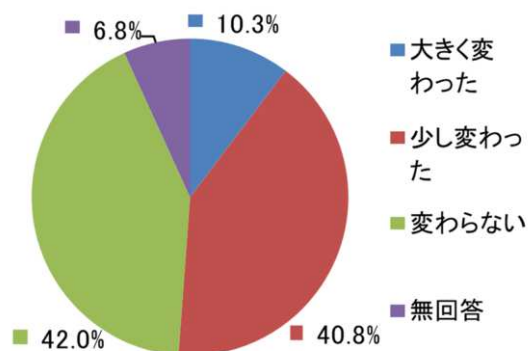
問５－２ 協定期間（20 年間）についてどう思いますか。

今後の管理について		回答数
①	期間が長すぎる	132
②	期間は適当である	100
③	分からない	175
④	無回答	18
計		425



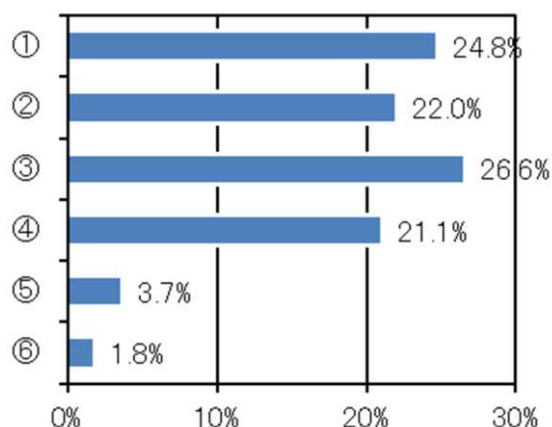
問６－１ やまがた緑環境税による森林の手入れが行われた後で、森林についての見方に変化はありましたか。

森林の見方の変化		回答数
①	大きく変わった	44
②	少し変わった	174
③	変わらない	179
④	無回答	29
計		426



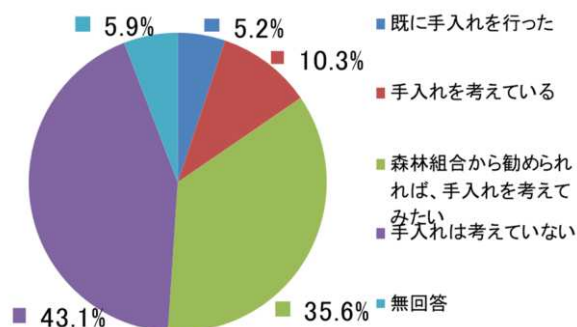
問６－２ 問６－１で１とお答えになった方にお伺いします。森林についての見方はどのように変化しましたか。

森林の見方の変化		回答数
①	森林を保有していることを意識するようになった	27
②	周辺の森林も見erようになった	24
③	森林の手入れも必要だと感じるようになった	29
④	金銭的な助成があれば、手入れ（森林組合等への委託を含む）をしてみたいと思った	23
⑤	その他	4
⑥	無回答	2
計		109



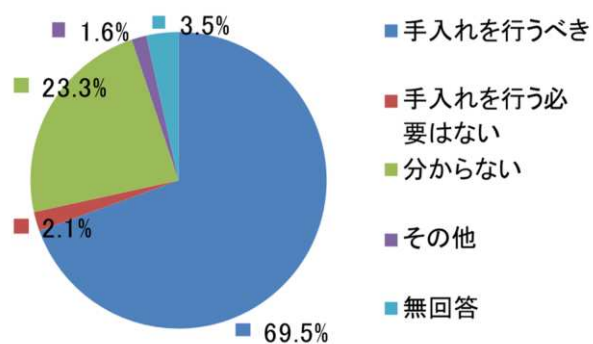
問7 今後、御自身（森林組合等への委託を含む）で森林の手入れを行いますか。

今後の森林の手入れ		回答数
①	既に手入れを行った	22
②	手入れを考えている	44
③	森林組合から勧められれば、手入れを考えてみたい	152
④	手入れは考えていない	184
⑤	無回答	25
計		427



問8 森林の手入れ不足を解消する方法の一つとして、今後も県がやまがた緑環境税を活用して手入れを行うべきと思いますか。

緑環境税を活用した森林の手入れの継続		回答数
①	手入れを行うべき	298
②	手入れを行う必要はない	9
③	分からない	100
④	その他	7
⑤	無回答	15
計		429



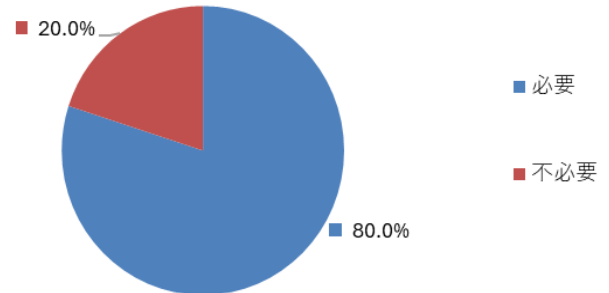
◆調査対象：市町村聞き取り調査

<調査の概要>

- 1 対象：県内各市町村
- 2 期間：令和7年9月～10月
- 3 回答：35市町村

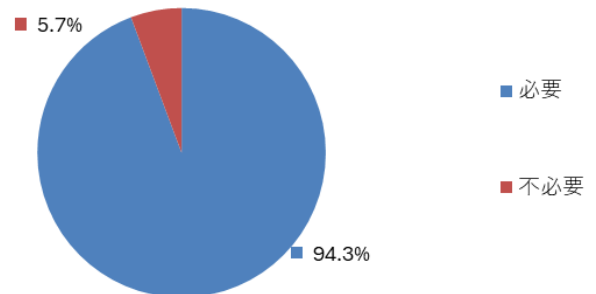
問1 「やまがた緑環境税」ハード事業継続の必要性

必要性		回答数
①	必要	28
②	不必要	7
計		35



問2 「やまがた緑環境税」ソフト事業の必要性

必要性		回答数
①	必要	33
②	不必要	2
計		35



資料5 県民参加の森づくり活動等参加者数一覧

区 分 名		H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績
やまがた 環境税 活用事業	県民みんなで支える森・みどり環境公募事業 (NPO・住民団体等実施)	6,546	14,564	16,491	17,431	18,223	19,150	21,965	24,532	25,677	27,298
	みどり環境交付金事業 (市町村実施事業)	9,277	11,475	13,148	17,525	16,986	17,851	20,638	19,069	20,474	19,315
	やまがた絆の森プロジェクト推進事業 (一般及び企業向け事業)						3,574	3,626	3,084	3,477	3,132
	自然環境保全対策の推進 (保全活動等)	170	17	180	251	88	46	98	101	156	288
	自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進 (環境教育関係)	656	1,615	1,709	1,846	1,726	5,070	4,300	3,678	4,343	4,348
	新たな森づくりの推進体制の整備 (普及啓発事業等)	2,688	2,994	4,006	5,181	5,239	4,237	4,655	6,451	6,852	8,294
	みどりを育む意識の醸成 (みどりの循環・総合支庁実施事業)								573		
	木の香るやまがたの街づくり事業	1,008	595								
	やまがた緑環境税分 計	20,345	31,260	35,534	42,234	42,262	49,928	55,282	57,488	60,979	62,675
	合 計	62,220	67,850	72,688	78,739	81,782	82,987	88,924	94,544	98,618	100,673
県計	ボランティアによる森づくり活動・研修会等	5,352	2,202	3,749	1,653	1,240	1,056	1,623	1,976	2,137	2,702
	小中高の森林学習森林環境教育	5,419	5,651	4,366	4,657	4,324	2,207	2,689	2,976	2,734	2,188
	緑の少年団活動	1,262	1,577	2,102	1,335	1,569	1,315	671	1,478	1,457	1,487
	「県民の森」の体験プログラム等	29,842	27,160	26,937	28,860	32,387	28,481	28,659	30,626	31,311	31,621
	計	41,875	36,590	37,154	36,505	39,520	33,059	33,642	37,056	37,639	37,998

区 分 名		H29 実績	H30 実績	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績
県計	やまがた緑環境税活用事業									
	県民みんなで支える森・みどり環境公募事業 (NPO・住民団体等実施)(～H28) 県民提案型事業 (NPO・住民団体等実施事業)	22,447	19,976	15,594	11,439	13,042	11,825	9,756	9,218	10,694
	みどり環境交付金事業 (市町村実施事業)(～H28) 里山再生アクションプラン・市町村提案型事業 (市町村実施事業)	23,035	23,048	29,250	18,428	22,408	28,876	33,876	35,070	28,950
	やまがた絆の森プロジェクト推進事業 (一般及び企業向け事業)(～H28) やまがた絆の森づくり推進事業 (絆の森協定締結企業向け)	3,514	4,639	2,774	606	830	787	1,681	2,224	1,278
	森づくりサポート体制推進事業	290	312	220	262	197	39	85	167	148
	自然環境保全対策の推進 (保全活動等)	297	279	274	238	254	159			
	自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進 (環境教育関係)									
	森林・自然環境学習等の推進 (やまがた木育、森林自然環境学習等)	3,921	5,175	5,737	372	576	3,060	343	433	800
	新たな森づくりの推進体制の整備 (普及啓発事業等)									
	みどりを育む意識の醸成 (みどりの循環・総合支庁実施事業)	11,889	11,731	13,009	4,050	9,422	12,266	23,704	22,148	20,188
やまがた緑環境税分 計	65,393	65,160	66,858	35,395	46,729	57,012	69,445	69,260	62,058	
既存事業等	森づくり活動団体や市町村等による森づくり活動等	1,842	1,573	922	578	1,181	798	14,532	5,905	6,693
	自然環境学習等の推進							333	225	179
	小中高の森林環境教育	3,061	4,298	5,224	1,623	1,359	2,700	1,777	5,675	4,376
	緑の少年団活動	1,194	1,783	1,450	423	507	522	546	320	515
	「県民の森」の体験プログラム等	31,277	29,797	31,225	7,002	10,670	12,681	21,240	21,918	16,705
	計	37,374	37,451	38,821	9,626	13,717	16,701	38,428	34,043	28,468
	合 計	102,767	102,611	105,679	45,021	60,446	73,713	107,873	103,303	90,526